平成１７年度

新企画科目
授業報告書

愛媛大学教育開発センター

共通教育部

目次

広領域科目
ひとの生き方・考え方の変遷・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
山本　万喜雄(教育学部)

ゼミナール科目
ストレスと健康・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
薬師神　裕子(医学部看護学科)

芸術の世界・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
松久　勝利（教育・学生支援機構）

文章による交流・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
清水　史（法文学部人文学科）

生命の不思議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
小林　直人(医学部医学科)

プロジェクト科目
愛媛の歴史とひとびと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
佐藤　栄作(教育学部)

日本の地域性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
寺谷　亮司(法文学部人文学科)

雑学のすすめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
佐藤　浩章(教育・学生支援機構)

外国の文化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９
向井　留実子(教育・学生支援機構)

地球を考える・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１
佐野　栄(教育学部)

サイエンス体験科目
生命の不思議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５
林　秀則(無細胞生命科学工学研究センター)

物質の不思議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３７
東　長雄(理学部)

地球を考える・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３８
山崎　哲司(教育学部)

科目名：ひとの生き方・考え方の変遷　　*授業形態：広領域科目*
担当教員：山本　万喜雄(教育学部)
受講者数：２４３名

キーワード：大学、授業通信、対話の教育

はじめに

東京で定時制高校の教師をした後、１９７４年以来、愛媛大学で学生の教育、とりわけ「未来の教師」を育てる仕事に従事してきた。この３０年余り、地域に根ざした国民のための大学づくりにつとめ、その成果の一部は大学における教育実践として報告してきたところである。

否定的にとらえがちな面に肯定的な光をあてて生かすことが、人間の尊厳に根ざす多様な個性を認め合う生き方の思想を編み出すのではないか。そのように考える私は、授業の感想文を重視した教育実践を重ねてきた。本報は、２００人を超える多人数講義におけるコミュニケーションの試み、とりわけ「授業通信」による対話の教育について報告するものである。今回は、２００５年度の共通教育科目「ひとの生き方・考え方の変遷」の授業内容及び学生の感想を中心に報告したい。

Ｉ．授業「ひとの生き方・考え方の変遷」の内容と学生の感想・評価

（１）授業内容

１．「ひとの生き方・考え方の変遷」を学ぶにあたって
　①　３つの願い　②　病むことも人間を育てる　③　生きる喜び　生きる哀しみ

２．学びで想像力
　①　「アトピー」を観て　②「障害者自立支援」法を考える

３．健康・安全性の考え方
　①　教科書と結核の歴史　②ゲントーク･労働災害の模擬授業　③　交通安全標語の考察―疾病の自己責任論批判

４．人間の性について考える
　①　人間にとっての性　②　恋愛列車、恋愛不安　③　「脳の誕生」を観て―性の知識と生の尊厳　④　育児は育自　そして授業の中間総括

５．ともに生きる
　①「with・・・」を観て　②　共生とボランティア

６．授業の総括
　リポート　①　私にとってのこの授業　②私の選んだテーマについて深める

（２）ある学生の感想　「この授業と私」

まずは、この授業は私にとって素直になれるきっかけであった。自分が思ったありのままの感想が書けるようになったと思うし授業以外でも、以前より自分の考えを言えるようになった。自分を表現できるようになった。このことは私の中では、すごく大きな進歩である。次に、この授業は「驚き」であった。それは、私が今まで考えたことの無いような考え方が、授業の中にたくさんあったからだ。中でも特に印象的だったのが、「否定的な物事を肯定的にとらえる」という考え方や、「病むことも人間を育てる」など世間ではマイナスに考えられがちな事柄でさえも、プラスにとらえるような考え方である。私はこれらの考え方に驚いたし、良い刺激を受けた。それは、自分が、時に物事をマイナスにとらえ、病んでしまうことのある性格だからだ。この考え方を聴いてから、ずいぶんと気が楽になったし、新たな観点で物事がとらえられるようになった。新たな観点といえば、「信じて疑え！！」という言葉に気づかされたことも大きかった。資料を読み取る際に、ある１つの資料をすべて鵜呑みにするのではなく、１つの事柄に対しても多くの資料から情報を得、比較するということの必要性を実感した。そして、資料を読み取るための鋭い視点も身につけたいと感じた。また、この授業は「発見」でもあった。アトピーの映画を見て、アレルギーの苦しみに耐えながら大きくなった兄や、友達。それを支えてきた家族や身の回りの人の凄さに気づくことができて本当に良かった。そして、健康に生まれ、今まで育ってきたことがどれだけ凄いことなのかも分かったように思う。他にも、多くの人が法律の内容をよく理解しないまま可決された《障害者自立支援法》。労働災害を通して、「不注意は原因ではなく、むしろ結果である」ということ。国の責任

を国民に転嫁しているとも考えられる「自己責任」という言葉の使われ方。等、この授業を受けていなければ気づかなかった、知らなかったことがたくさんあった。授業の中で、様々なことを知っていくうちに、それまで自分がそのことを知らなかったことが怖くなったし、知らないことの怖さも感じた。知ることの重要性も学んだ。今、「興味がない」と言って知ろうとしない、知らないことが怖いことであると思っていない人は結構多いのではないだろうか。知らないとハマッてしまう罠もあるのだ。また、この授業は「人生の糧」であった。どの授業でもどこかに必ず、これから生きていく上での力となることがあった。例えば、先ほどもあげた「病むことも人間を育てる」という言葉は自分が病んでいる時に、必ずいい方向に導いてくれるだろう。心にしみる、勇気をもらう言葉が本当にたくさんあった。（中略）この授業は「成長できる場所」でもあった。自分で感じられた成長は、今までにないあらたな視点をたくさん手に入れることができ、その視点にたって物事をとられるようになったこと。該当者の気持ちを以前よりも想像するようになったことである。（後略）

（３）学生の授業評価

ところで愛媛大学教育開発センターでは、共通教育のすべての講義で授業改善のためのアンケートを２回実施している。ここでは、2005 年 11 月 1 日に実施した中間アンケート(n=194)の回答の一部を示す。

Ｑ３．担当教員の話し方や説明の仕方はわかりやすいですか？

①非常にわかりやすい　８３．５％　　②まあまあわかる　１６．５％
③わかりにくい　０％　　④まったくわからない　０％

Ｑ４．教科書・プリント・黒板・各種教材（スライド，ビデオ，OHP など）の使い方は効果的ですか？

①とても効果的だ　６３．２％　　②まあ効果的だ　３３．７％
③あまり効果的でない　３．１％　　④まったく効果的でない　０％

以上，学生の評価は概ね肯定的であった。

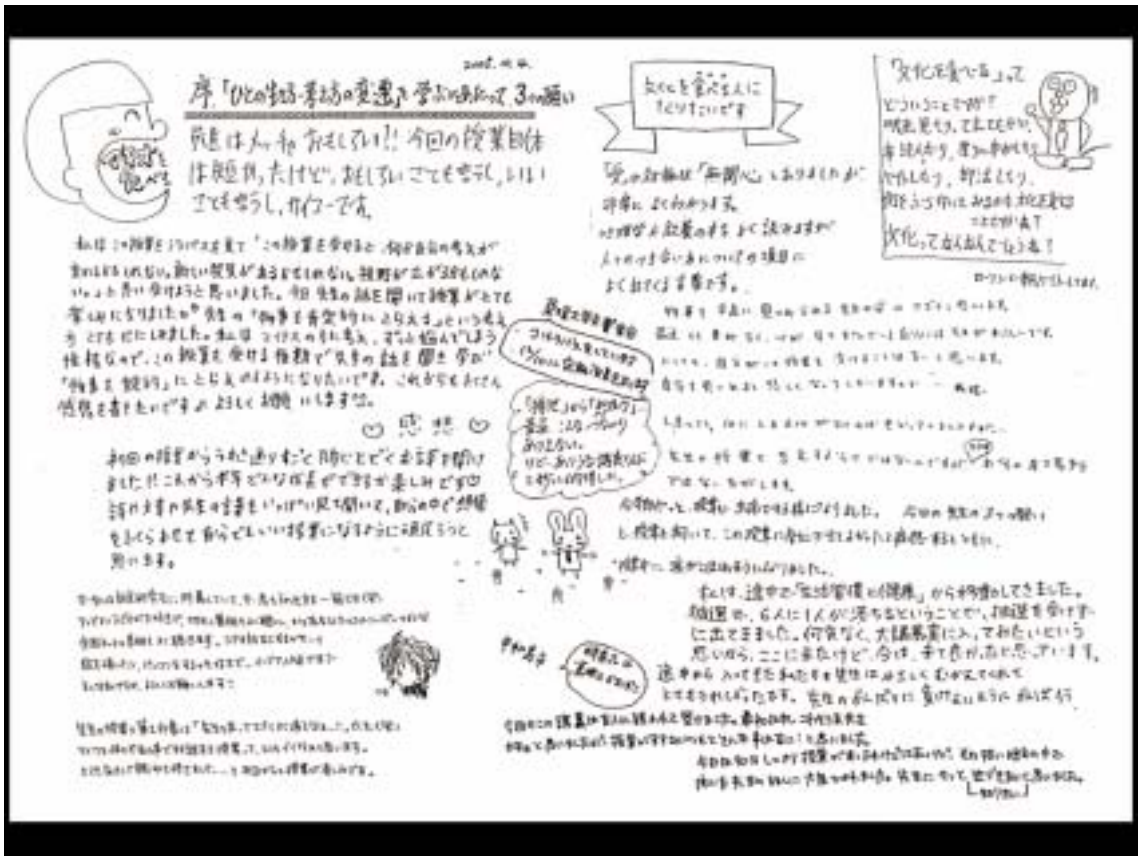
Ⅱ「授業通信」による対話の教育

【感想文の書き方・読み方・返し方】

私にとって授業の感想文は，教育実践の鏡であり，なによりの評価である。授業の終了前の 10 分程度をとって，授業のひとことを求める方法は，学生自らの成長に大きな役割を果たしている。書くことは考えること。自分の言葉で，自分の問題として，自分の発想で書かれたものが出てくれば，それがその学生の歪みであったとしても，良い感想になるのではないかと考える。教師は事前に，その意図および感想文の読み方・返し方を十分理解してもらうことが大切である。また学生自身，短時間で感想をまとめる力の獲得が可能になるように，訓練しつつ教えることが必要になってくる。

次に感想文を返す方法は，二つある。一つは感想文のいくつかを選び出し，その日の授業の全体がわかるように編集し，印刷したプリント(B4)を次の授業のはじめに全員に返す。その際選ぶ視点は，多数意見，少数であっても価値のある意見，教師への反論，時には反論に対する批判を入れる。もう一つは，一人一人の感想文を期末に綴じて返す。前者は他者からの学びあいができると支持され，後者は自らの生活を見つめる上で資料となると喜ばれている。ただ多人数講義の場合，この感想文の分析・総合の作業は，かなりの時間を要する。それだけに，その日のうちにやってしまうことが，永続きのコツだと思う。最近では，学生の描いたイラストも生かしながら，楽しくアピールする通信になるよう心がけている。（資料参照）

【授業通信】


序「ひとの生活・考方の変遷」を学ぶにあたって 3つの題い
感想

マキオを食べる9
11月 29日
人間・環境を考える
本当にそう思います

科目名：ストレスと健康	*授業形態：ゼミナール科目*
担当教員：薬師神　裕子(医学部看護学科)	
受講者数：４２名	

１．　**授業題目**：子どもと家族（ゼミナール科目　健やかに生きる　ストレスと健康）

２．　**重視した教育目的**：

本授業の教育目的として、１）現代の超少子高齢社会における家族の特徴をふまえて「子どもと家族の健康」について理解すること、２）グループ活動をとおして、「子どもと家族の健康」をテーマに文献やインターネットによる調査・分析、ディスカッション、発表方法などのスタディスキルを学び、学生の主体的な学習能力の育成をはかることを重視して授業を展開した。本授業を3部構成とし、まず導入として家族を理解するために必要な知識である「子どもにとっての家族の意味」「わが国における家族の変貌」「健康な家族の定義」「家族支援のアプローチに必要な家族発達段階論・家族システム論・家族ストレス対処理論」について講義形式の授業を行った。次に、後半部分の授業をセミナー形式とし、受講生42名を7名ずつの6グループにわけて、「子どもと家族の健康と支援」に関する発表テーマを設定させ、各グループでの文献学習とディスカッションの時間を設け、最後にグループ発表とクラス全体でのディスカッションを行う学生参加型の授業とした。

３．　**設定した到達レベル**

１）　家族理解に必要な家族発達段階論・家族システム理論の基礎について説明できる。
２）　病気や障害を持つ子どもと家族の現状や課題について、文献や資料を用いて調査・分析が行える。
３）　障害や病気を持つ子どもと家族への支援について、自分の考えを明確にし説明できる。
４）　学生同士の意見交換をもとに、家族支援のあり方について考察できる能力を身につける。

４．　**授業を進めるにあたって特に留意した事柄**

１）　学生の背景や学習目標の明確化

法文学部、教育学部、工学部の異なる学部学生が対象であり、初回授業で「自己紹介・受講の理由」について記述させ、学生のバックグラウンドや個々の学習目標を明確にして授業に臨んだ。また、2回目の授業でクラスメンバー全員の自己紹介と学習目標を発表してもらい、クラスメンバーの背景を知ることで、積極的なグループワークと学生同士のディスカッションを期待した。

２）　授業コメントのフィードバック

毎回の講義で得た学びや疑問について出席カード兼コメントカード（15 回の講義の学びを記述するＡ４‐２枚綴りの用紙）に記入してもらい、一人ひとりの学生の学びを確認しながらコメントを添えて毎回の授業で返却するとともに、自らの学びを確認する材料として学期末にコメントカードを返却した。

３）　自分の家族をみつめる

講義をとおしてまず自分の家族がたどってきた歴史や、家族の大切さ、ありがたさ、役割について考える機会となるよう、「自分の家族に置き換えて考える」ことを重視し学生に働きかけた。

４）　ドキュメント番組の活用

医学的知識のバックグラウンドの少ない学生が対象であったため、病気を持った子どもと家族のドキュメント番組を視聴し、子どもと家族の生活の実際から子どもと家族が抱えるストレスや困難を乗り越える姿を理解できるよう配慮した。

５）　グループワークの円滑化

グループメンバーの編成はグループワークを円滑に行うための鍵である。したがって、学生にアンケートを実施し、学生の意見を取り入れながらグループ編成をおこなった。聴覚障害のある学生１名がクラスに在籍していたため、手話が行える学生のグループを設け配慮した。また、15 回の講義でグループ作業を行う時間を 3 回設け、異なる学部生との調整や交流がスムーズに行えるよう配慮した。また、グループワークの時間を有効活用するため「グループワーク作業計画書」を毎回配布し記入してもらった。学生の主体的なグループワークの取り組みを促進するために、発表テーマ、調査・分析方法（文献学習・インタビュー・調査等）、発表内容、発表方法（レジ

ュメの作成、ビジュアルエイドの利用等）について教員が指示するのではなく、グループで自由に設定することとした。

6）グループ発表の学生相互評価

クラス全体でのグループ発表会では、評価用紙を用いて自己評価と他者評価を実施し、評価結果を集計して各グループにフィードバックし、学生の意見からわかりやすいプレゼンテーションの方法や発表内容について再考できるよう工夫した。

5．　学生の反応

- 授業中に見た２つのドキュメントはとても感動的で、あのような時間を与えてくれたことがうれしかった。ハンディキャップを持って産まれてきた子どもを持つ親の大変さがリアルに感じられ、今を生きることの意味や生きていることの大切さを学んだ。その家族をとりまく環境や支援を見つめ、自分なりに解釈することで様々な支援方法を教えてくれる教材となった。
- 改めて家族について考えることによってどれだけ家族が自分の支えになっていることか、どれだけ自分が恵まれているかとかいろいろなところで自分の中で家族はとても大きな存在であり、自分にとってかけがえのないものであるということに気づきました。
- この授業で一番良かったのはグループワークだ。最初はみなで協力してうまくできるか不安だったが、予想以上にでき達成感があった。発表することで自分たちを他の人たちに評価してもらうことは大切だと思った。他のグループの人達からの評価は自分たちの長所や欠点を知ったり意外な部分に気づいたりした。また、他のグループの発表には驚きの連続だった。
- 今回の発表会では自分たちの考えを相手に伝えることの難しさを痛感した。発表の準備段階でも、資料の活用の仕方や分りやすい説明の仕方を考えるのにとても苦労した。資料の作成過程において、できるだけ見やすく分りやすいようにはどのようにすればよいか常に考えながら準備を進めていくことができた。
- 発表後の質疑応答は全体的に積極性に欠けていた。質問しやすい環境に変える必要がある。例えば、発表後にグループ毎に意見交換をすることで自分の意見に自信が持てる。グループの代表者が質問や感想を述べるなどのやり方で行うと質疑応答が活発になると思う。
- 講義やグループワークや発表会をとおして一番良かったと思うことは、障害を持つ子どもの気持ちやその家族の心境にまで考えをめぐらすことができて、本当に良かったと思う。医療が進歩しても最終的に変わらないといけないのは私たち人間なのだと思いました。

6．　総合的にみてうまくいったかどうか

少人数のゼミナール形式の授業として、クラス人数を30人に限定したが、42名の学生が受講を希望し、5人×6グループの予定を7人×6グループ設定に変更し、グループワークをおこなった。若干グループワークを行うには人数が大きいと感じたが、個々のグループで役割分担を行い積極的にグループワークが実施できた。また、ゼミナール形式の授業として、学生ひとりひとりの顔が見えるなかで、意見交換を行い自分の考えが伝えられるような授業となるよう計画した。「学生同士や学生と教員間でのコミュニケーションがとれ、自分自身が考え意見を伝えられるような授業であった」と、学生参加型の授業として評価された。

7．　今後に向けた改善点

家族を理解する理論については、難しいと感じる学生も多かったことから、共通教育レベルで専門的な理論を提示する場合、できるだけ具体的に学生がイメージしやすいような工夫が必要であった。グループ編成に関しては学生の意見も取り入れながら行ったが、聴覚障害のある学生のために手話のできる学生のグループを設けたが、逆に手話のできない学生がグループの中で意思疎通が困難となり、グループ編成の難しさに直面した。また、学生の指摘にあるように、発表会での意見交換を活発に行うために、個人に感想や意見を求めるのではなく、グループでの話し合いの時間を持った上で意見交換を行うことを取り入れたい。

8．　愛媛大学の学生に学ばせたい教養テーマ

子育て支援や次世代育成支援に関するテーマ

科目名：芸術の世界　　*授業形態：ゼミナール科目*
担当教員：松久　勝利（教育・学生支援機構）
受講者数：３１名

Ⅰ 授業題目　　眼差しの共有―ワンランク上の美術理解のためにー
Ⅱ 履修者数　　３１名
Ⅲ 重視した教育目的
学生が、美術作品という客体化された「こころのかたち」へのアプローチを介して、自らの「感性を育む」ための具体的な方法を知り、実践できる。
Ⅳ 設定した到達レベル
①画面に即した絵画理解の導入的技法の意味を知り、実践できる。
②協同して事にあたることを通じて、社会的技法を身に付ける。
③問題を見つけ、その解決に向けた調査、分析、討論、まとめ、プレゼンテーション、レポート作成法等、基本的なスタディスキルの導入段階に対応できる。
Ⅴ 授業を進めるにあたって留意した事柄
①答が一律ではない問題へのアプローチすることの楽しさを経験してもらう。
②社会的技法が育っていない段階で、いかに円滑に協同学習に入ってもらうか。
③「感性」に関わる授業の評価法を開発するため、学生による自己評価と相互評価の運用テストに取り組む。
Ⅵ 学生の反応（上記Ⅴに即して）
①についてはおおむね良好な反応であった。絵画鑑賞というきわめてパーソナルな作業が、はじめから一人ひとり異なるものであることを学生は承知しており、それにもかかわらず他者や他のグループの理解の違いに、目から鱗が落ちる、といった反応がみられた。
②グループにより活動の活性度が異なり、不活発なグループへの対応に苦慮した。しかし不活発なグループでも、上記①の反応を契機として、個々の学生になんとかしようとする努力が見られ始め、最終的には活発なグループの８０％程度には到達できており、まずまずの結果と言える。
③学生による成績評価の問題点は、個人により甘すぎたり、厳しすぎたりというムラが生じる点にある。これに対しては、教員による評価も並行して行い、これをズレの大きい学生に示し、グループの中で評価のズレについて話し合ってもらった。これにより自分とまじめに向き合うことができたとする反応もあり、教育上も効果的と思われるので、今後も引き続き試みるつもりである。
Ⅶ 総合的に見て、うまくいったかどうか
大方の学生にとり絵画鑑賞への本格的な取り組みは初めての経験であり、自分の感性に向き合う作業は大きな刺激になったようだ。その一面、定められた手順を踏んだ学習法が確立されていない分野であることから、学生がどう対応したらよいのか、途方にくれる場面もあった。学生の授業評価は 4 点中 3.2 といったところで、前年度よりも若干だが向上した。
Ⅷ 今後に向けた改善点
・グループワークの活性度を高いレベルにもっていくための工夫。
・学生による自己採点の信頼度を高めるための工夫。
・時間外学習の設計。

科目名：文章による交流　　*授業形態：ゼミナール科目*
担当教員：清水　史（法文学部人文学科）
受講者数：１８名

□授業題目
　日本語ラーニング―理系学生のための―

□重視した教育目的
　日本語の様々な特性を理解することによって、科学を記述するための日本語の適正な使い方を習得する。

□設定した到達レベル
　シラバスに掲げた＜到達目標＞は以下の通り。
（１）レポートと口頭発表を作成するプロセスを的確にイメージすることができる。
（２）所与の課題を達成する中で、論理性と批判的思考力を養うことができる。
（３）情報収集とリソースの組み立て方を身につける中で、自己の意見を確立することができる。
（４）達意の文章を作成する極意と口頭発表のコツを習得することができる。

□授業を進めるにあたって特に留意した事柄
（１）ピア学習が効果的に行われるような班編制にした。
（２）日本語の基本と特徴が理解できるようなビジアル教材を作成し活用した。

□学生の反応
最終回に授業で印象に残ったところを記述してもらったので紹介したい。
▼グループ・ワークについて
・グループでのプレゼンテーションはやりがいがあった。はじめはグループ・ワークが少なく聞く授業が多かったが、だんだんとグループ・ワークが増えておもしろかった。
・グループ・ワークを行う中で、楽しく日本語を勉強することができました。また、理系に絞った授業であったため、レポートの書き方なども自分に合ったものでよかったです。
・グループ・ワークも多く、自分の意見を述べる機会も多かったので、楽しみながら学習することができたと思います。機会があればもっとくわしく学んでみたいと思いました。
・受講している授業で唯一のグループ・ワークだった。日本語は、勉強してみるとおもしろいと思った。
・グループでの議論が中心であったということ。あまり得意ではない。

▼授業の効果
・自分の意見を言いやすい雰囲気で、授業が活発に行われていたと思う。日本語を使うスキルが学べて、レポートを書く時に役立つので、受講してよかった。
・前半に、文章の書き方やプレゼンテーションの注意点についての講義をうけ、後半は、実際に、そのことを活かしてプレゼンテーションをしたこと。習ったことを、実際に活用出来るかを試せたので良かったです。もし、上級編が開講されれば、受講して、いろいろな話題のプレゼンテーションをしてみたいと強く思いました。
・間違った文章を修正する作業で、どこが文法的に間違っているかと改めてさがすと、わからない部分もあって、日頃文章を読む時、どれだけ無意識だったかを実感した。
・構成をしていくことがとても難しかったが、勉強になった。とても有意義な授業だった。自分の日本語力のなさも痛感しました。
・私はコミュニケーションをすることや、文章を書くことが苦手だったので、この授業をとってみようと思った。実際にやってみて、今まで知らなかったことが学べてよかった。少しは力がついたと思う。
・知っているようで明白でない知識をきちんと正しく学ぶことができて、少しは日本語が上手に使えるようになったと思う。また、班を作り、話し合いをして、お互いの意見を出し合えたのが、印象に残った。

・句読点で文の意味ががらっと変わることに驚いた。

▼授業への要望
・もう少しレポートの書き方について詳しく学びたかった。

▼その他
・発表の時、前で即興で文章を考えるのが難しかった。もっとゆとりを持って発表にのぞみ事前に客観的に自分を評価できればよかった。
・毎回、ディスカッションや口頭発表があったこと。
・最後のプレゼンテーションがなんとかできたこと。
・先生のステキさが印象に残ってます。

□総合的にみてうまくいったかどうか
シラバスに掲げた４つの＜到達目標＞のそれぞれについて、受講生１７名に１００満点で自己採点してもらった結果の平均点は次の通り。
（1）→６７．１点
＜レポートと口頭発表を作成するプロセスを的確にイメージすることができる。＞
（2）→６６．４点
＜所与の課題を達成する中で、論理性と批判的思考力を養うことができる。＞
（3）→７３．５点
＜情報収集とリソースの組み立て方を身につける中で、自己の意見を確立することができる。＞
（4）→７０．５点
＜達意の文章を作成する極意と口頭発表のコツを習得することができる。＞
（1）～（4）全体の平均点は６９．４点。それぞれの目標に対して約７割方の点がついているところから判断すれば、まあまあうまくいったといえるのではなかろうか。「日本語ラーニングの上級編があったら受講したいと思うか」の問いかけに１５名が Yes と答えていた。理系に向けた卑近な話題を提供するように心がけた点もよかったのではないかと思われる。

□今後に向けた改善点
努力目標としての具体的・物理的改善点は、1）ピア学習の効果をもっと引き出せるような方法を開発、2）性能のいいパソコンによるビジアル教材の開発等々いくつでもあげることができるが、日本語ラーニングのようなスキルを習得させる授業に関しては、実施にあっての前提を確認することが必要なのではないかと考える。受講時に日本語運用能力測定試験を実施し、個々人の資質を見極めておくことを痛感する。
たとえば、上記到達目標の個人ごとの得点集計で、最高点と最低点とを示すと次の通り。
最高点（1）８０点　（2）９０点　（3）１００点　（4）９０点
最低点（1）３０点　（2）３０点　（3）　５０点　（4）５０点
個人ごとにみた場合にはずいぶんと開きがある。実際、個々の学生の日本語力はまちまちであって、この点が日本語ラーニングにとって最大の課題である。スキルを習得させるという点では日本語力のあるなしはあまり関与的ではないと思われたが、授業時に行う作業に関して個々人の所用時間に遅速が生じるなど、当初の思惑を超える想定外の出来事に授業設定を変更せざるを得なくなることが多々あった。すぐれた TA が何人かいれば授業進行については改善することができようが、すぐれた TA を確保することの方がなおさら難しい。
このような授業を開講する時期としては後学期の方がよいと考える。前期の新入生セミナーにおいてレポートの書き方等の基礎的なところを習得した後に、スキル・アップを図る授業を後期に配置した方が効果的ではなかろうか。望むべくもないことであるが、新入生セミナー時に、一斉に日本語運用能力測定試験を実施できれば、個々人の大学生としての初期段階での日本語に対する資質を見極めることができ、爾後の教育を行う際の貴重な資料を得ることができるのだが。

科目名：生命の不思議　　*授業形態：ゼミナール科目*
担当教員：小林　直人(医学部医学科)
受講者数：２８名

1.　**授業題目：ヒトの骨「百物語」**
　自然を知る、生命の不思議（少人数学生参加型授業・“ 主題別セミナー ”タイプ）

2.　**履修者数　21 名（単位取得者数）；（平成 15 年度は 16 名、平成 16 年度は 22 名）**
　この授業は３年度連続してほぼ同じ内容で開講した。
　今年度は３名の途中脱落者があったのが残念、理由は不明（学期当初の登録数は 28 名）。

3.　**重視した教育目的**
　共通教育の科目、特に「主題別科目」には明確な教育目的が示されていなかった。そこで、この授業の設計に当たって私は、目的を以下のように設定した：
　★“知識の伝授”は主たる目的としない。
　☆“知識を得ることの喜び”を実感できる場の提供を授業の目的とする。
　☆“自ら考える”経験の場を提供することを授業の理想とする。
　学生が専門教育課程で専攻する内容は様々であり、全学生共通の“ 教養教育 ”を目指すなら知識伝授のみを目標とする授業はその目的にそぐわない。むしろ、特に１年次の学生にとっては“ 知的な喜び ”を体験することこそが、その後の学習への動機付けになる。
　そのためこの授業には当初からグループワークを取り入れることを計画し、新企画授業としてクラスサイズを小さくさせていただいた（定員は 30～40 名）。いわゆる“ 理系 ”科目ではグループワークは導入しにくいという意見もあるが、小グループのメンバーで協力して課題を解く、というプロセスを授業に取り入れた。

4.　**設定した到達レベル**
　この授業のテーマを一言で言えば、「形態と機能とが不可分であること」である。そして、そのような例を人体を通して学び、さらに発展させて学生自らが“ 実近にある例 ”を考えることが到達目標である。したがって獲得した知識を問う筆記試験は行わず、“ 自ら考えた ”ことを評価するためにレポートを課した。
　教育の成果はその前後の学習者の変化によって測定できる。この授業の到達レベルは「学習者のモノの見方が変わる（形態を機能を結びつける、機能を前提にして形態を見る）」ということになる。これは非常に成績評価しにくいが、学生がレポートで扱った具体例のオリジナリティ等は評価の対象になると思われる。

5.　**特に留意した事柄**
◎テーマは教員自身の得意とする内容から選定する。
　学習者が大学１年生で学部もまちまち、という条件下で授業をする上で、内容が分かりやすくかつ教える側として自分の知識の量と質に自信がある領域であることを重視した。「骨」は共通教育を担当するようになるよりも前から自分なりに温めていたテーマであった。
　3.と 9.にも書いたが、全学レベルでの“ 教養教育 ”の場合、授業のテーマそのものは何でも良いはずである。より重要なことは、扱うテーマが具体的で学生にもイメージしやすい実近なものであること、さらに、テーマに則した実例の中からより一般的なテーゼが導き出せること、であると私は考える。今回の授業の場合、テーマは「ヒトの骨（の形態と機能）」「ヒトと他の動物との比較」であり、その中から「形態と機能は不可分である」という一般的なテーゼを見いだすことができる。
◎詳細なシラバスを作る。
　愛媛大学教育ワークショップの企画や愛媛大学ＦＤハンドブック「もっと！授業を良くする」の執筆に参加させていただいたので、シラバスの重要性は良く認識しているつもりである。結果として共通教育の科目の中でも最も長いシラバスの一つになっている。シラバスは平成 15 年度に丁寧に作成したので完成度は高いと考えており、平成 16・17 年度と毎年若干の変更を加えながら繰り返し使っている。

◎授業資料（パケット）を学期当初に配布する。

作成したパケットは約 50 ページ。ただし授業中にメモを取るスペースも含めているため白紙に近いページも多い。学生からは「手作りの教科書」とも認識されているようであり評判はよい。パケットは学期当初に授業の内容を紹介する上でも役立つ。

◎１回の授業で扱うキーワードを極力少なくする。

大半の授業では各回のキーワードは一つである。具体的には、１回の授業で考察する対象はなるべく一つの「骨」あるいは一つの「関節」に絞るよう心がけた。

◎学生とのコミュニケーションを密にする。

ただし、必ずしも口頭でのコミュニケーションにはこだわっていない。

実際には、授業毎に最低でも 15 分かけて小レポート（Ａ４で１枚）を書いてもらい、それに朱を入れて次の授業で返却した。また、他の学生にも参考になる小レポートを選び、コピーを受講生に配付した。特に、その回の授業で分からなかったことや関連する質問をなるべく小レポートに書いてもらい、それに対して一言ずつコメントした。学生の感想を読む限り、小レポートは学生にとってはその日の授業を振り返って知識を整理し、分からないことはその場で（書くことで）質問できる、という点で良かったようである。教員にとっては、その回の自分の授業（講義だけではない）を学生がどれだけ理解したかしなかったかが手に取るように分かり、次回の授業の設計に役立つ。ただし、私の授業の場合にはクラスサイズが小さいためほとんど負担感は感じていないが、100 名を超える授業では工夫が必要であろう。

◎レポートは早めに提出させ、添削して返却する。

冬休み明けにレポートを提出してもらい、数週間かけて添削をした後、学生に返却した。レポートを返却する日の授業は“効果的なレポートの書き方”とし「自分のレポートをこうしたらもっと良くなる」ことを考えさせたが、このことは最終学生アンケートでも役に立ったと指摘されている。この様なスタディ・スキルをトレーニングする授業は、１年生には特に有効と考えられる。

6.　学生の反応

学生からは「分かりやすい」「興味がわく」「今まで考えてもみなかった内容でおもしろい」「質問しやすい」「モノの見方が変わった」「言葉で表現することの難しさを実感した」等、肯定的なコメントを得ており、「このままの授業スタイルを続けて欲しい」という声が多数派のようだ。

平成 17 年度と平成 15 年度の学生アンケートでは、「授業満足度」について回答者全員が「強い肯定」という非常に高い評価を受けた（回答者は平成 17 年度が 18 名、平成 15 年度が 13 名）。平成 16 年度の同アンケートでも「授業満足度」は４点満点で 3.9 点（回答者 19 名）である。

また、平成 16 年度と 17 年度は、授業終了後に受講生の一部が私の研究室を訪問してくれている。

7.　総合的な自己評価

シラバスやパケットの準備、毎週の小レポートの添削など授業にかけているエネルギーの分、学生も“知識を得ることの喜び”を体験できている、と自分では感じている。ただし、これは単にクラスサイズが小さいことが主要な原因かも知れない。適切な評価のためにはピア・レビュー（同僚評価）が必要であろう。

8.　今年度の改善点

当初平成 15 年度にグループワークが思ったほど好調でなかったため、平成 16 年度には担当者が黒板を使って発表する形式を取り入れたが、逆にグループワークもプレゼンテーションも中途半端であった。今年度は、学内のＦＤセミナーなどで学んだ成果を取り入れ、

1. ２回目の授業でグループを作成し、アイスブレーキングを十分に行う。

2. グループのメンバーは１学期間固定する。

という工夫をし、一定の成功を収めた。過去の２年間と比べれば、今年度はグループワークが活発になった。

今後は、大教室での授業についての授業スキルをいろいろ試してみたい。

9.　学生に学ばせたい教養テーマ

3.に書いた「☆」の内容に尽きる。逆に、「授業テーマ」やそこで扱われる「具体例」は“何でも良い”し、必ずしも最先端のことである必要はないと考えている。“大学生が学ぶべき教養”について私は、

☆価値判断や意思決定のための材料
☆その材料を手に入れるための技法
☆その材料を活用するための技法

の総体であると考えている。

10.　ピア・レビュー

授業参観のコメントを下記に引用させていただく。参観していただいたことに感謝いたします：

〇〇〇〇@▽▽学部です。先ほどは、授業を拝見させていただきまして、ありがとうございました。短い時間ではありましたが、感得するところ多々ございました。まず、率直な感想ですが、小生もご講義受講してみたくなりました。おもしろそうですね。非常に卑近な事柄であるにもかかわらずまったく知らないことがこんなにあるなんて（小生だけかもしれませんが）、いや、あらためて気付きました。

授業の進行もテンポよく、受講生にとっては心地よく受講できるのではと思いました。物を観察してそこから何かを発見し、そこから全体を考えるという面白さ、学問の醍醐味を感じ取れるようなご講義であったと思います。何よりも先生の授業、学生に対する真摯なご姿勢が、同じ教える身の私にとっては、とても感動的であり大いに勉強になりました。

科目名：愛媛の歴史とひとびと　　*授業形態：プロジェクト科目*
担当教員：佐藤　栄作(教育学部)
受講者数：３４名

授業題目「「坊っちゃん」１００年と松山」

重視した教育目的
愛媛の地で学ぶ者という自覚、愛媛の地に学ぶ者として必要な知識の獲得。

設定した到達レベル
① 小説『坊っちやん』がいかなる作品であるか自分の言葉で語れる。
② なぜ松山に『坊っちやん』を冠したモノやコトが多く存在するのか、その理由が説明できる。
③ 松山にとって『坊っちやん』はいかなる存在であったかについて、自分の考えが述べられる。
④ 今後、松山と『坊っちやん』とはどのような関係であるべきかについて自分の考えを述べられる。

授業を進めるにあたって特に留意した事柄
できるかぎり学生の知的興味を引き出すことに徹し、受講生自身の中に生れた課題意識を大切にする。

学生の反応
『坊っちやん』を読み直し、『坊っちやん』が単なる痛快な物語ではないことを知り、映画と原作との違いを確認したとき、作品『坊っちやん』への関心がかなり高まり、授業への関心も強まった。

総合的にみた授業評価
受講生の興味・関心が、予想以上に一つに集中してしまい、テーマ別のグループづくりがうまくいかなかった。すなわち、「坊っちゃん○○」探しとその効果を調べたいという受講生が大半を占め、「『坊っちやん』とはいかなる作品か」「漱石にとっての『坊っちやん』とは」といったテーマを課題とする受講生がほとんどいなかった。それによって、グループ発表会が深まらず、さまざまな課題についての調査・分析結果を共有するところまでいかなかった。

今後に向けた改善点
作品の読み込みをもっと深めておく必要があった。しかし、社会学、歴史学、文学といったさまざまな方面に受講生の興味関心が散らばった場合、それらを総合できるかというと、それもわからない。半期では短すぎるかもしれない。
入学したばかりの一年生にとって、愛媛で学ぶことの自覚を促すことは、全てがプラス面ばかりではないかもしれない。三年生あたりで、愛媛で生きることの覚悟ができてくると、同じ授業でも、また違った意義が出てくるかもしれない。

学ばせたい教養テーマ
地域に関わる文学作品について採り上げるというのは、今回は必ずしも成功しなかったが、やはり共通教育の中にあっていいのではと思う。

その他
本授業の受講生のうちの７名が、「『坊っちやん』と松山の新世紀を考える」というテーマで、プロジェクトＥに採択され、現在、なお活動中。年末に、松山市学生による政策論文に応募し、優秀賞を得た。論文題目は「坊っちゃん先生、おいでんかなもし！「坊っちゃん」同窓会祭りで松山市を活性化しよう」。さらに、3月１９日開催の『坊っちやん』１００年記念愛媛大学シンポジウムにおいても、若者代表としてパネリストとなり、「小説『坊っちやん』のすすめ」と題して、意見を述べた。本授業の延長と考えれば、本授業のいささかの功績といえるかもしれない。

科目名：日本の地域性	*授業形態：プロジェクト科目*
担当教員：寺谷　亮司(法文学部人文学科)	
受講者数：２３名	

１．＜授業の目的＞
（１）巡検（野外実習）によって、実際に地域を観察することによって、松山市の風土に関する知見を深めるとともに地域を観る眼を養うことである。
（２）通常の演習時を通じて、調査テーマに関する調査方法、発表方法、討論方法を学ぶことである。

２．＜到達目標＞
（１）新鮮な目で地域を観察し、感じた率直な印象を表現する。
（２）あるテーマに関して、調査を実施し、調査成果をレジュメを基に発表する。

３．＜授業の内容＞
テーマは，「松山の都市発達」であり，巡検（野外観察）中心の授業を実施した。巡検以外の授業時は，巡検箇所に関するテーマについての発表，および質疑応答を行った。各回の授業の実施内容については，下記のとおりである。

水曜日（２講時）		*巡　検*
4／13　ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ（顔合せ・発表割り振り）		
4／20　＜巡検Ⅰ＞		御幸寺山 （松山市街を見下ろした印象は？）
4／27　演習		
①松山の地形	（神　野）	
②松山の気候	（三　馬）	
③伊予鉄道史	（青　木）	
④松山市の観光	（藤　原）	
5／04　休日		
5／11　＜巡検Ⅱ＞		市電沿線 （松山の交通事情を考えよう）
5／18　演習		
⑤温泉と温泉街	（平　原）	
⑥道後温泉の歴史	（薬師寺）	
⑦道後温泉の現況	（関　井）	
⑧道後商店街	（佐　伯）	
5／25　＜巡検Ⅲ＞		道後温泉 （温泉街の不況打開策はないか？）
6／01　演習		
⑨古町の歴史	（豊　田）	
⑩フジの店舗立地特性	（山　本）	
⑪萱町商店街	（　孟　）	
⑫物価の安い都市はどこか	（金　尾）	
6／08　＜巡検Ⅳ＞		萱町・フジグラン （ものの値段を比較してみよう）
6／15　演習		
⑬松山城の歴史	（長　井）	
⑭城山の自然	（天　羽）	
⑮江戸時代の松山市	（　空　）	
6／22　＜巡検Ⅴ＞		城山 (江戸時代の松山を想像しよう)
6／29　演習		

⑯大街道と銀天街　　（佐　野）
⑰正安寺・大正通　　（関　谷）
⑱ロープウエイ街　　（大　下）
⑲歓楽街　　（則　頭）

7／06　＜巡検Ⅵ＞　　松山都心
（松山の都心は魅力的だろうか）

7／13　演習
⑳松山の明治以降都市発達史（矢　野）
21 お遍路さん　　（三　瀬）
22 石手寺　　（山　内）
23 仏教と宗教建築　　（藤　井）

7／20　＜巡検Ⅶ＞　　石手寺
（四国遍路について考えてみよう）

7／27　反省会（予備日）

４．＜授業を担当しての感想＞

当該授業のような少人数授業を新入１年生に課することは, 円滑な大学生活への導入のための生活指導，大学における学習方法の個人的指導など，その意義は大きいと思われる。ただし，巡検主体としての授業においては, 外へ出かける安全性の確保, 報告させるための時間不足などの点から鑑みて, 受講生を１５名以下に制限すべきである。本授業でも，調査結果の報告を十分とれなかった点が悔やまれる。この点を踏まえ，次回は，事前学習，巡検・調査，調査結果報告の３時間でワンセットとしての授業を実施することにしたい。

授業についての学生の感想は，「身近な松山についての知見が得られ興味深かった」，「あちこちへ出かけることができて楽しかった」など ，概ね好評だったようである。

科目名：雑学のすすめ　　*授業形態：プロジェクト科目*
担当教員：佐藤　浩章(教育・学生支援機構)
受講者数：４５名

目次

１．シラバス
２．愛大キャンパスを元気にするイベント企画評価結果
３．学習目標の達成状況
４．リフレクションシートコメント一覧
５．参考：リフレクションシート

シラバス

共通教育雑学のすすめ The Pleasures of General Knowledge 教養教育科目 2 単位　科目番号 371
授業題目 イベントプランナー養成講座（Seminar for Event Planners ）
担当教員名 佐藤　浩章(教総)　対象学生 E　開講時期 2005 年度　前学期
キーワード イベント企画（event plannning）、協同学習(cooperative learning)、コミュニケーションスキル(communication skills)、プレゼンテーション(presentation)、ビジネススキル（business skills）
＜目的＞ ビジネスの現場や市民社会で求められる「イベント企画力」を身につけることで、主体的にものごとを企画し、多くの他者を巻き込みながら、「場」を変革できる人間を養成する。
＜到達目標＞ ①コミュニケーション（聴く・話す・尋ねる）のスキルを向上させる。 ②アイデア発想法・収束技法に関する知識とスキルを身につける。 ③話し合いの場で、建設的な議論、コンセンサス法による意思決定を行うスキルを身につける。 ④基礎的なビジネスマナーの知識とスキルを身につける。 ⑤成功するイベントの要素を複数あげることができる。 ⑥効果的な広報戦略についての知識とスキルを身につける。 ⑦円滑な会場運営に関する知識とスキルを身につける。
授業の内容・スケジュール 前半（１～６）は、基礎編であり、コミュニケーション力のトレーニングを行う。後半（７～15）は、応用編であり、キャンパスを元気にするイベントのプランニングを目的としたトレーニングとワークを行う。授業は、ミニレクチャーとグループワークを組み合わせた形式が主となる。 １．ガイダンス ２．アイスブレーキングと自己表現力トレーニング ３．アイデア発散と収束技法 ４．効果的なミーティングの技法 ５．効果的なプレゼンテーションのコツ ６．プレゼンテーション演習 ７．イベントプランニングのコツとマーケティングリサーチ ８．ゲストスピーカー＆グループワーク ９．ビジネスマナー入門＆中間プレゼンテーション 10. 企画書の書き方＆グループワーク 11. 効果的な広報宣伝活動＆グループワーク 12. 会場運営のコツ＆グループワーク 13. ゲストスピーカー＆グループワーク 14. イベント企画プレゼンテーション① 15. イベント企画プレゼンテーション②
受講生にかかわる情報 ・授業の目的・到達目標を受講生に達成してもらうために、受講生を 35 名以下に制限します。第 1 回目の授業で受講者を確定しますので、必ず参加するようにしてください。途中参加は受け付けることができません。 ・受動的態度ではなく、能動的態度が求められます。 ・積極的に自己開示、表現することが求められます。 ・他者との共同作業を厭わない態度が求められます。 ・様々な学年、学部の受講生の受講を歓迎します。
受講のルールにかかわる情報 ・携帯電話・メールは、許可された場合以外に使用しないで下さい。

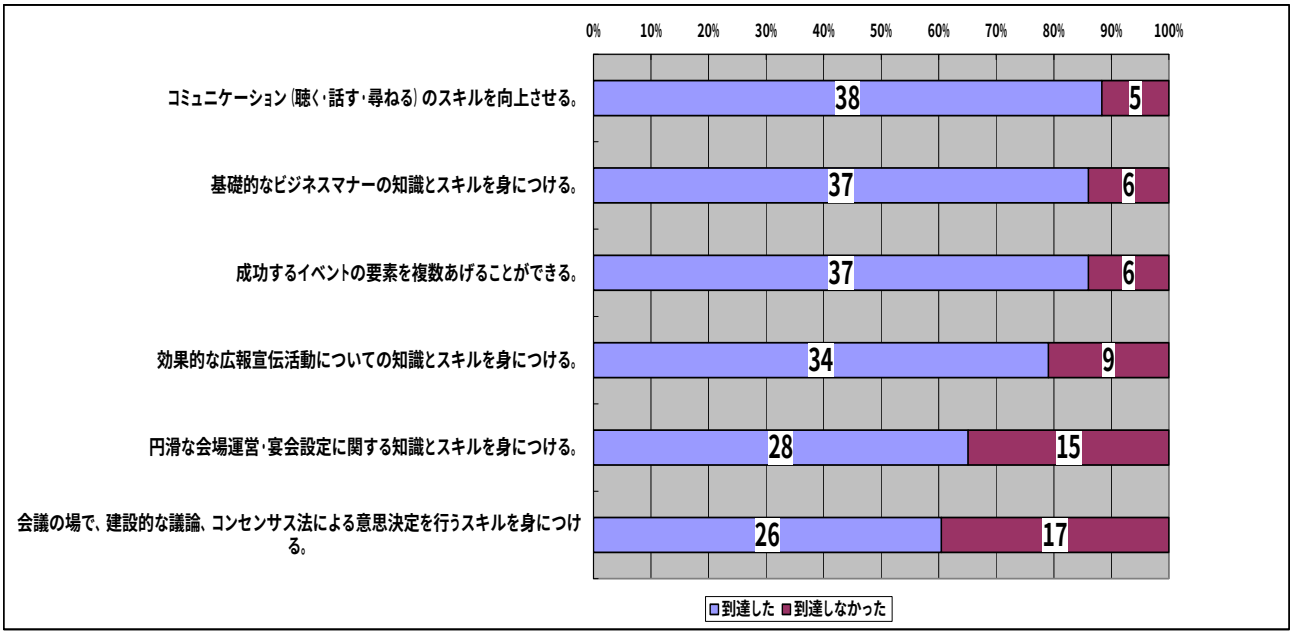
・遅刻・途中退席は 2 回で 1 回の欠席とみなします。
・いかなる理由であれ 5 回以上の欠席の場合は単位を出せません。
・授業担当者は欠席者分の配布資料は保管しません。

教材にかかわる情報
＜教科書＞
『イベント成功への道』（東正樹　郵研社　2004 年　￥1,800）
…7 回目から授業中に使用しますので事前に購入しておくこと。
＜参考書＞
『必携！ビジネスマナー』（阿部開道　西東社　2003 年　￥1,000）
…イベントプランニングの際に必要となるビジネスマナーを扱ったもの。大学生であれば手元に必ず置いておきたい一冊。購入を強く勧めます。
『イベントの底力～企業を変える、地域を変える』（平野暁臣・真木勝次　日経 BP 企画　2002 年　￥1,500）
『現場主義のイベント企画』（TOW イベントプランナーズスクール編　日経 BP 企画　2002 年　￥1,500）
…二冊ともイベントプランナーとしての実例が掲載されたもの。将来、イベントプランナーを職業としたい人向けの内容。

評価にかかわる情報
以下の３つの項目（必須）での評点の合計が 60 ポイント以上の学生を評価対象とします。
（１）出席…45 ポイント
※本授業は、毎回作業がありますので、出席を重視します。1 回欠席すると 3 ポイント減点です。
（２）ミニ課題（途中で課される複数の課題 5 回分）…25 ポイント
（３）イベント企画書とプレゼンテーション（学期末に完成させる）…30 ポイント
※その他に各種ボーナスポイントがあります。

オフィスアワー・その他
月曜日 3 時限目（12 時 50 分～14 時 20 分）に研究室（共通教育北別館 304 号室）でお待ちしています。気軽に顔を出して下さい。原則アポなしで大丈夫ですが、アポを取った方が確実です。それ以外の時間帯を希望される場合は、メールで事前に連絡下さい。sato@iec.ehime-u.ac.jp

学習目標の達成状況



どの目標についても、6 割以上の学生が到達したと答えており、授業実施者の意図はかろうじて達成された。

コミュニケーション能力については、冒頭にインテンシブなトレーニングを実施しており、このワークを通してより良いモデルを作成した。これを「話しやすいコミュニケーションの 11 か条」として配布し、毎回の授業で意識するように指導した。これらにより、自身のコミュニケーションスキルについては、8 割以上の学生が向上したと認識している。

ビジネスマナーについては、民間で営業職を経験したゲスト講師によるレクチャーの後、研究室を訪

問し、講演依頼をするというグループ向けの実践課題を課した。思いのほか、好評であり、調査からも 8 割以上の学生が身についたと認識している。
広報宣伝活動と会場運営については、グループにそれぞれ課題を課したが、全員で行うものではなかったため、課題に直接関わらなかった学生にとっては、スキルが身についたと認識しにくい可能性がある。

また、話し合いにおける議論についてであるが最も達成感が低くなっている。ほぼ毎回議論の時間を設定したし、授業時間以外でも学生たちは自主的に集まって討議をしたようである。それでも、達成感が味わえていないのは、この目標は自分だけで制御できるものではないからである。他者との共同作業が欠かせない学習目標であり、他者の意見を聞きだし、自分の意見を主張し、まとめあげていくという力が不足している学生像が浮かびあがる。こうした能力の開発方法については今後検討したい。

共通教育イベントプランナー養成講座（2005 年前期　担当：佐藤浩章）
愛大キャンパスを元気にするイベント企画評価結果

★ドキドキバレンタイン大作戦(和心)

①プレゼン技法（５p.）：大変堂々としたプレゼンでした。ユーモアを交えながらも、理路整然として毅然とした質疑応答も力強い印象を与えます。笑顔も効果的です。ただし話すテンポが若干速いこと、発声に強弱があり聞こえにくい部分があることは改善した方がよいでしょう。また質問に対し、相手に逃げる余地を与えずに、たたみかけるのは最終手段ですので極力使用を避けましょう。
②企画書Ａファイル（５p.）：全て記載されています。
③企画書Ｂパワポ（５p.）：よく整理されています。企画への情熱を感じます。アンケート実施を挿入したこともよい点です。
④企画内容(8p.)：作り手と渡す相手の双方のメリットを考慮したよくできた企画です。企画を理由に普段コミュニケーションがとりにくい相手に渡せるというメリットがあります。作り手が昼間の学生で、渡す相手が夜間主生というのが、最後まで気になりました。作り手としては、いつも顔をあわせている意中の人に渡したいという気もちがあるでしょうから、そこを解消するうまい方法を考えてはどうでしょう。チョコが欲しい人にも何らかの形で集まってもらう。もしくは、作るのは土曜日。渡すのは翌週の平日などは無理でしょうか。
⑤ポスター（5p.）:オリジナルの原画を活用した素敵なポスターができあがりました。配色、説明文もよいです。タイトルはもう少し大きくてもよいでしょう。
⑥発表へのコメント：「チョコを配るのが楽しそう」「良かった」「発表のやり方が良かった」

★愛大の中心で喜怒哀楽を叫ぶ(Love Green)

①プレゼン技法(3p.)：男性社員の話し方は、冒頭で問いかけをして注目を集め、会話調で聞きやすいです。調査結果に基づく提案も説得力を増しました。一方でフレンドリーすぎる感じを受けます。大学関係者に対するプレゼンですので明瞭できちんとした話し方をすべきでしょう。また多少独演的な感じがして、聴衆に向けて訴えているという感じがあまり伝わってきません。女性社員の話し方は、落ち着いており、とても聞きやすいです。訴える感じも表現できていました。タイムオーバーは減点です。
②企画書Ａ（３p.）:最終ページの記述が抜けている部分がありました。
③企画書Ｂパワポ(5p.)：よくできています。

④企画内容(8p.)： メールを使った斬新な企画で、現代の学生が気軽に参加できそうです。その成果を冊子にするのも、手間でしょうが、後世に残るものを作るというのは素晴らしいことです。アクティブにあまり動けない学生のニーズをよくつかんでいます。
⑤ポスター（４p.）：配色、デザイン、ともに優れたポスターです。残念ながら、会場名にミスがあります。また読み手からすると、どのようなメールを送ってよいのか具体的なイメージがつかみにくい文章ですので、文章量を増やすか、詳細内容を記入した別紙を用意するとよいでしょう。またタイトルが見えにくいのも修正しましょう。
⑥発表へのコメント：「好きな時間にいけるのがよい」「ロゴがかわいい」「気軽に参加できてみなも好きそう」

★癒しカフェ（ホーイ）

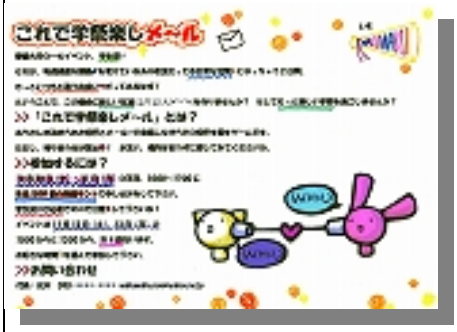
①プレゼン技法（３p.）：まずは最初の全員での挨拶がとても好印象です。ターゲットを絞り込むことで、企画に締まりがでました。問いかけをしたのも良いでしょう。　社長の離し方は柔らかく攻撃的な感じを受けない点が良いでしょう。具体的施策については、記述が弱かったです。予算等についても明確になっていない印象を与えてしまい、聴衆は不安感を持ったはずです。
②企画書Ａファイル（５p.）：全て記載されています。
③企画書Ｂパワポ（５p.）： よくできています。
④企画内容(8p.)：癒しを求める大学３、４回生というのはおもしろいターゲットのつかみ方だと思います。 また飲食物だけではなく、マッサージ器設置という発想もユニークです。かなり具体的で、現実的な企画であり、実現するかもしれません。
⑤ポスター（３p.）:洒落たデザインで癒しを表現しています。ただやはり、温泉の写真よりも、カフェの写真のほうが混乱を招かずに済むでしょう。またピア＠カフェの場所がわからない人も多いので、マップか説明が必要でしょう。また今回はコーヒーやケーキ、マッサージのサービスがあるわけですから、その内容を挿入すべきです。
⑥発表へのコメント：「癒し空間を求めている人は多い」「マジでやりたいと思う」

★友情タワー（KAMOW）

①プレゼン技法（３p.）：声の大きさは適切でしたが、原稿をただ読み上げる形になってしまいました。原稿は時々見ても構いませんが、聴衆を見る必要があります。そうでなければ、聴衆は聞いてくれません。せっかくの企画の熱意が伝わりません。楽しい企画ですので、楽しい雰囲気を出しましょう。質問に応対した女性社員の対応は誠実でよかったです。
②企画書Ａファイル（５p.）：全て記載されています。
③企画書Ｂパワポ（５p.）：よくできています。
④企画内容（７p.）： 企画自体のシンプルさが、逆に人気を呼びそうです。ネーミングはすばらしいです。商品は、チームにジュースを少し大目（例えば、一箱）に配布することでモチベーションを高めることができると思います。ジュースの調達は、テキストにも書いてありますが、メーカーからの協賛という形をとると良いでしょう。ただし他社に比べて、企画の緻密さが足りませんでした。社内での意思伝達をさらに向上させるとよいでしょう。
⑤ポスター（３p.）:シンプルですが、何をするのかわかりやすいポスターです。このイラストを上手に使う方法を考えましょう。白地はあまり目立たないので色つきがよいでしょう。重要な情報（日時）は大きく書きましょう。実施時間がなく、受付時間のみの記述では誤解を招くでしょう。またもう少し楽しい、わくわくする感じを言葉などで表現すると、参加意欲が向上すると思います。

⑥発表へのコメント：「仲良くなれるのか？という意見もありましたが、燃えるし、会話も自然に出ると思います」

★これで学祭楽しメール（WAKUWAKU）



①プレゼン技法（４p.）：発表者全員が笑顔で楽しそうにプレゼンをしていたのは好印象です。とても大事なことです。タイムオーバーは厳禁ですので減点となります。個人情報に対する質問は確実に答えるようにしておく必要があります。セキュリティは専門的知識を持ったプロにお願いするという回答もあったかと思います。また出会い系からの事件の可能性については、学生証＋宣誓書によって、クリアできると伝えても良かったと思います。
②企画書Ａファイル（５p.）：全て記載されています。
③企画書Ｂパワポ（５p.）： よくできています。
④企画内容（8p.）： まずタイトルがよいです。学祭に行きながらにして、友達が作れるという良いアイデアです。大学でも学生のコミュニケーション能力をどう向上させるかを検討していますが、参考になります。ただし上述のように、個人情報関係を扱う際には十分な準備が必要となります。メールではなく、別なメディアを使用するだとかして、是非、世間の「出会い系」とは異なる「出会い系」イベントを企画していただければと思います。
⑤ポスター（４p.）：メールを意識したポスターで、雰囲気が出ています。イラストもかわいいです。ただし重要な情報が埋もれてしまっています。遠くから見てもわかりやすいように、タイトル、日時はもう少し大きめに配置しましょう。
⑥発表へのコメント：「参加したい」「友達つくりたーい。」「やってみたい」

★Halloween Party（JC）

①プレゼン技法（５p.）：社長が責任感を持って堂々と発表できていました。非常に良いプレゼンでした。コンセプトが非常に緻密に作り上げられています。コンセプトが明確だと、企画を立てているときに、方向がぐらつきません。社名のように、皆を躍らせるくらいの元気な企画ができあがりました。
②企画書Ａファイル（５p.）：全て記載されています。
③企画書Ｂパワポ（５p.）： よくできています。
④企画内容（９p.）： 各企画の名前の付け方に工夫が感じられます。食べ物、飲み物も名称が変わるだけで、トライしてみたくなりますね。アイデア力が優れた企画だと思います。学生祭前の、子どもたちを対象とした企画は、これまでないと思いますので、素敵な企画だと思います。
⑤ポスター（４p.）：余白部分が少し多いため、文字が少し小さめになっています。また本当に重要な情報（日時など）が他と同じポイント数のため見にくくなっています。ポイント数を大きくしましょう。文書作成とは違って、ポスター作成の場合は、余白をぎりぎりまで少なくすると良いでしょう。イメージキャラクターを作成して親しみやすい図柄になりました。
⑥発表へのコメント：「非常に説明が良かった」「たくさんの企画があっておもしろそう」「絵がかわいい」

★オニゲッチュ（NOMOTO）

①プレゼン技法（２p.）：発表者の声の大きさやボディランゲージなどの表現能力は優れています。ただし練習は十分だったでしょうか？発表内容がアドリブ部分が多いように感じました。せっかくの企画もプレゼンの練習が不十分だと、企画内容そのものが不十分だという印象を与えてしまいます。また、社長の発表の最中に、他の社員がうつむきながら立っていたのもあまり良い印象を与えません。緊張していたのかもしれませんが、社長をサポートする姿勢を見せるようにしましょう。
②企画書Ａファイル（５p.）：全て記載されています。
③企画書Ｂパワポ（５p.）： よくできています。
④企画内容（９p.）： よく練られた企画だと思います。子どもから誰もが親しんでいる鬼ごっこに写真撮影などのアレンジを加え、大学生でも楽しめるような企画になっていると思います。ただし、学生祭の混雑時の鬼ごっこというのは、参加者の安全上の問題が少し残ります。
⑤ポスター（４p.）:オリジナルのイラストはよくできています。また手書きのタイトルも、子どもの遊びを上手に表現していると思います。白地のポスターはあまり目立たないので、薄くでも地に色をつけたほうがよいでしょう。日時、場所等の重要情報はさらに大きく書きましょう。連絡先も小さすぎます。

★Let's Cook! （WWB）

①プレゼン技法（４p.）：社長の誠実な人柄が表れたプレゼンでした。少し口調が速かったです。質問に対する受け答えも誠実で、しかも緻密で、好印象です。ただし企画の自信のなさを壇上で表現してしまってはいけません。自信がない部分があったとしても、堂々と発表しましょう。
②企画書Ａファイル（５p.）：全て記載されています。
③企画書Ｂパワポ（５p.）： よくできています。
④企画内容（8p.）：最も緻密に詳細に計画がなされていた企画です。
⑤ポスター（４p.）： とても上手にレイアウトされています。写真の写し方がとても上手です。美味しそうに写っていますね。せっかくですのでメニューのタイトルを入れると良かったでしょう。日時が少し小さめです。最も重要な日時は大きく記載しましょう。自社の説明枠が大きすぎるので小さくまとめましょう。
⑥発表へのコメント：「プレゼンに熱い思いを感じました」「現実味があるし人のためになっているところがよい」

★発表かい！？（Your Diary）

①プレゼン技法（３p.）： 発表内容はよく整理されていたと思います。男性社員が笑顔で立っていたのは良かったですね。また質問に対して、社員が分担して答えていたのもチームワーク力を見せてくれました。社長さんのプレゼンは、もう少し力強くされた方がよいでしょう。自信なげに聞こえてしまいました。いつもより 120%のテンションで発表するのがコツです。
②企画書Ａファイル（５p.）：全て記載されています。
③企画書Ｂパワポ（５p.）： よくできています。
④企画内容（8p.）：企画の現状分析が的確でした。コミュニケーションが苦手な最近の学生さんを意識した企画です。大学としては是非、実施してほしい企画です。ただしタイトルにもう一工夫あってもよかったのでしょうか？せっかくの中身があまりうまく伝わらないような気がします。
⑤ポスター（3p.）：配色がとてもきれいなポスターとなりました。写真は、学生の今の気持ちを表現したものなのでしょうが、少し寂しい雰囲気になってしまいました。大声を出して発表している楽しい雰囲気（自分たちがモデルになった写真でも良かったですね）を使うのも一つのアイデアです。日時が大きく表現されているのは良いです。
⑥発表へのコメント：「煮詰め切れなかったけど頑張りました」「応援します」

★ペインティング＆ネイルアート（Yoshidart）

①プレゼン技法（４p.）：社長が責任を持ってしっかりとプレゼンをしてくれました。ユーモアを随所にちりばめ聞く人を楽しませるものでした。緊張していたのか、ところどころ沈黙する部分があり、聞いている側は少しはらはらさせられました。リハーサルを繰り返し入念に準備をしておきましょう。
②企画書Ａファイル（５p.）：全て記載されています。
③企画書Ｂパワポ（５p.）： 時間をかけてよく作られたことがうかがえる力作です。ただし派手なアニメーションを使いすぎると、見ている側がひいてしまうという問題も生じます。少し使いすぎたかなという感じを受けました。
④企画内容（８p.）： 会社のコンセプトとマッチした良い企画だと思います。イベントの要素「非日常」を意識した良例です。ネーミングは、わかりやすいのですが、もう一工夫ほしいところです。内容は緻密で、よく考えられています。専門学校生を講師としてお願いするというアイデアも効率的です。
⑤ポスター（４p.）：フルに写真を使った、わかりやすいポスターです。腕部分に書かれたタイトルが少し見えにくくなっています。 トップの「愛媛大学　学生祭」の部分をタイトルを持ってくると良いでしょう。格安の値段を前面に押し出したのも良いです。
⑥発表へのコメント：「実際にあったら参加してみたい」「人数の見方は甘いが、一番考えられている」

本評価結果のファイルが欲しい人は、佐藤までメールで連絡をしてください。ファイルを送付します。

リフレクションシートコメント一覧

■学習を通して自分に関して気づいたことを学んだことは何ですか。

・イベントを考えていくことによって、自分の意見を言えるようになってた。アポをとったり、名刺を渡したりすることが学べた。
・話し合いのとき、相手の意見を聞きつつ、話し合いに参加できた。プレゼントがしてよい機会になった。

・一人ではできないことがいっぱいある。

・一つのイベントを企画するのはとても大変だけど、とても意義のあることなんだと実感しました。
・プレゼンテーションの難しさに改めて気づきました。自分のよいと思っているだけで企画を通さないし、どれだけ利益があるのかとか目標など細かいとこまでには目が回りませんでした。
・人とコミュニケーションをとることはとても難しいと思った。この授業に出て様々なイベントに触れ合ったことで、もっと自分からイベントに参加してみようと思うようになった。
・今まで親戚内の小さな規模のイベントぐらいしかやったことなかったが、もっと大きなイベントもできる気がした。また、マナーも身に付いてよかった。
・自分がサブリーダー役でしたが、もしかしたら、テンションリリーバーの役割も果たしていたかも思いました。新たな自分を発見できた気がします。
・リーダーとしてまだまだ力不足だなあと。これから、サークルの活動としてイベントを企画したり、交渉に入ったりという機会が増えてくると思うので、それらの活動が成功するようにいかせて行けたらと思います。
・人の思っている意見を、自分が持っていなくても立てることができると分かった。ちょっと社長向きではないのかも。プレゼンの仕方などを学んだことが普段別の授業のレポートなどにも使えるので感謝している。
・細かいところまで考えることができました。あとちょっと懲り過ぎること。また計画性がないので、プレゼンで言いたいことが全部言えなかった。リーダーでしたがサブリーダーの方が適任かと思いました。リーダーシップが全くとれてなかったので。
・リーダーは難しいと思った。
・やっぱり仕切り好きであることに気づいた。みんなそれぞれ希望した役割だったが、果たすのは難しかった。久しぶりにグループワークをして楽しかった。アイスブレイクは大切。
・知らない人と話すのがおっくうに感じるときが多かった。
・人前で発表することの大切さに気付いた。**授業が進むにつれて発表することに対しての抵抗感が少なくなったし班のみんなとも円滑に話をすすめることができるようになった。**
・もっと自分の持っている意見を周りの人に伝えるべきだと思った。意見を出すことも大切だけどその意見に対して賛成反対することも大切だと思う。

・仲間を信頼することが大切だということです。役割分担などをしたら、みんなしっかりと自分の役割をこなしていたと思います。ついついでしゃばりすぎるところがあるので、**自分のグループでの役割を意識することが大事**だと思いました。

・まだ自分は甘いなと思った。

・自分の向いている方向の再確認ができたと思います。やっぱりサブリーダーが向いていると実感しました。イベントをしたことない人が悪戦苦闘している姿から、普通の人の考え方も学べた。
・自分は意外と意見をはっきり言うタイプの人間だということに気がつきました。人の話をしっかりと聞いてそれを受け入れるということがとても大切だと学びました。
・なんとなくですが、会社の厳しさをした。イベント企画の大変さを実感できた。
・コミュニケーションのスキルはいちばん向上したと思う。**今までは一人の力で何とかしようとばかり考えていたが、今回の学習で、周りの人の力の大きさを感じ、協力することの大切さを知った。**
・今まで自分がある程度誰とでもコミュニケーションができると思っていたけれど、その方法にきちんとしたコツがあることを初めて知りました。また実践に企画を考えるには、かなりの時間をかけた。細かい計画が必要であるの学びました。ビジネスマナーを学ぶこともでき将来役に立つと思います。
・まずグループワークをたくさんすることで、自分の価値観と他人との価値観の違いがよくわかりました。また、**少数意見が間違っていて、人数も多い意見が必ずしも正しいというわけではない**ことを改めて知りました。また一つのイベント企画する時に１０の面や一の面など様々な方向から見つめて行かなければならないということを知りました。
・アイデアを生み出す能力は人並み以上。しかし、あれもこれも興味がで脱線するのも人並み以上。
・自分がいつもまとめ役やリーダー的な立場になることが多く、それを得意としていましたが、サポート役もなかなか上手にできてたくさんの人に感謝されたのは嬉しかったです。こまかいお金の計画などは前々から苦手だと思っていて、今回改めて分かったので、今後授業を取ったり本を読んだりして勉強していきたいなと思いました。
・いちばん悩んだのは「ボートに何を積む？」という質問だった。私自身は思っていることを口に出すタイプなので、

臆することなく自分の考えを口にできるが。当然それが苦手な人もいる。その人の考えをどう引き出し生かすか。大変だった。逆に絶対に自分の考えを曲げられない人もいる。その人の意見をどう全体の意見に言ったり、したりすればいいのか。**折り合いをつけるということの難しさを痛感した**。少しは上手になったと思う。
・企画を計画するにあたって、リスクや起こりうる状況などを考えなければならないことが多かったが、そういった所で、思った以上に考えがたくさん思いつくことが分かった。アイデアを思い付くことに関しては昔からあまりたくさんのことを考えられなかったが、そういった面でサポートできると気づいた。
・どちらかというと内向的な性格なのでコミュニケーションがヘタなのだと思っていたが、この講義を通して**自分をアピールする能力をつけることでコミュニケーションが円滑に行なえる**ことが分かった。
・自分が企画のアイデアにしても、一つのことにこだわり過ぎることに気づきました。一つのことにこだわるという言葉は良いことでも場合によっては考えを狭くしてしまうことになるので気をつけたいと思いました。
・**自分でも知らない自分自身の得て不得手を知ることができた**。
・考える力は衰えていた。様々なディスカッションにより回復したと思う。マナー作法プレゼン能力向上ディスカッション能力向上。
・初対面でも仲良くなれる。グループワークには信頼関係がいちばんだと思った。今回のイベントを企画するに当り、社長は本当によく頑張ってくれた。とても責任感が強いし。何としてもこの企画を成功させようという熱い思いを受けて、社員が一致団結できたと思う。私の方は立場だけでなく自分の意見を話すこともできた。
・**会話のキャッチボールが今までできていなかった**と思いました。
・ポスターを作製したり、イベントを企画することに思っていたよりも興味があって楽しくできました。**イベント企画は一人ではなく、皆で協力することでより良いものができる**ことを学びました。
・自分が思った以上にあがり症だったのに気付いた。
・自分の意見を通そうとする気持ちが弱くなっている。相手の意見を聞こうとする謙虚な気持ちと、遠慮は違うということを思い出させてくれました。
・**意外と自分の意見も他人に聞いてもらえることに気づきました**。ほんの少しでも役に立つことができるとわかってよかったです。
・人前に立っていろいろすることは思ったより難しいことだということが分かり、原稿を書いていてもちゃんということは、これからの課題だと思う。
・自分が出したアイデアが採用されたり、ポスター作成がわりとうまくできたり。こういう仕事に向いている部分があるのかなと思いました。
・**チームワークこそが優秀案を生み出す**。人の数だけイベント像があり、**一つ一つは大したことなくてもかけ合わせることによって、誰もが楽しめる納得出来る企画が生まれる**。
・この授業のような内容を勉強するのが自分にとって楽しいことだと分かった。自分は意見が言いたくてしかたないときがあることが分かった。コミュニケーションにおいて前半の方で学んだ意識しておくことを意識しながら前期は大学生活を送れた。少しは能力が身についたように思う。しかし、実際の他人の評価を聞いてみないとわからない部分が多い。
・人を引っ張っていく力まとめあげる力が足りないと改めて自覚しました。しかしこれらの能力はこれからあげられるとしていちばん問題だと感じたのは、スケジューリングとフォローの甘さです。プレゼンがし上がったのは本番１０分前で思っていたものよりずいぶん面白くないプレゼンになってしまったと思っています。ただそのプレゼンが結果的にトップをとることになったことを考えると、自分にも良いところがあるのかな。良いところも悪いところを的確に知られるようになりたいです。

■グループワークを通してその中間に気づいた事。仲間から学んだことは何ですか？
・**自分の持っていないものを持っている人たちだった**ので、今まで自分になかったし、学ぶことができた。
・それは協調性を大切です。その一言に尽きます。企画を立ち上げていく中で全員が協力しなければ進まないということを身をもって感じました。
・個々それぞれ思うところがあり、それらは実際に話してみないと分からないので、コミュニケーションが大事だなあと思いました。
・いろんな意見を持っているので**一人ではできないことがみんなでできる**ということが分かった。
・みんなとても真剣に取り組んでいた。協力し合いながら活動できてよかった。仲間から影響を受けた面もある。
・私のグループのみんなは社長任せには絶対しない人たちで、いつも至らない私を助けてくれたので、将来働く時が来たら私も**こういう人たちになりたい**と思った。**人まかせにしない**ことの大切さを学んだ。
・話し合うときは年齢は関係がなくその人の考え方による。
・仲間は大事。いろんな考えを持った人がいる。
・**ひとりでできないことはみんなでやればいい**ということ。
・その人にはその人のタイプがあって、**一人ひとりが自分の役割を果たすこと**を大切に気づきました。

・仲間同士の話し合いは大変でした。５人いる部分の意見があり、一つの企画にまとめることはなかなか難しかったです。けれども新しい発見もでき勉強になりました。
・自分の意見を主張することは大事だが多少の妥協も必要。年齢が違う者同士の方が楽しくできた。
・気が進まなくてもまず話してみること。そこから新たな発見もでて多くの共通点が見つかり、面白いことが起こる。だからまずは話してみる。
・**積極的に意見を言っておいた方が得**。でも人の意見を否定せずに話をすすめることが大事だと思った。
・その意見案が採用されるかされないかに関係なく自分の意見をみんなに伝えること。
・互いに思えることで、会社の雰囲気が良くなる。リーダーは大切＆大変。
・よく考えつめたりするグループに学んだ。正直そこまで考えるべきとは考えていなかった。
・会議の進め方、人の意見の引き出し方、そしてそれのまとめ方。
・リーダー的存在の人や同調するだけの人など多様な種類の人がいましたが。人の話さえしっかり聞けばうまくやって行けると思いました。また**自分の意見と他人の意見が食い違ってもお互いに理解しようとする姿勢が大事**だと思いました。
・適当ではなく最初から最後まできちんと計画を立てないといけないとわかりました。
・今回のようにグループは、似たもの同士ではなく、ちょっと自分とは違う人で構成された方がいい気がした。
・**学部の学年も性別もバラバラで、最初はとまどったけど、コミュニケーションをしていけば誰とでも仲良くできる**ものだと思いました。また後半は会社に別れて作業しましたが、社長、副社長、テンションリリーバー、それぞれが本当にその人にピタリの役で、作業しやすかったです。またポスターは誰がやってアポ取りは誰がやるという風に分担してできたのでよかったです。協力は大切だと思いました。
・なかなかグループ内での会話や企画の計画がうまくいかなくてイライラしてしまうこともありましたが、会を重ねるごとに協力するようになっていき、必然的にグループ内の会話も増えてきました。その時自分がグループでのポジションにあまりにもとらわれすぎていたなぁ。他の人に頼りすぎていたなぁ。など考えさせられることがたくさんありました。
・テスト直前のメンバー集めが大変だった。やはりこの時期テスト以外の課題から目をそむけたくもなるだろう。話し合いの面では自分が引っ張って行く。みんなが付いてきて行き過ぎたらすぐに歯止めをかけるというバランスの良いメンバー構成でよかったです。
・倫理的に物事を考え、筋道を立てていくこと。厳しい批判も時にはよりよいものを作っていく刺激になること。
・適当に合わせることの難しさを感じた。あくまで一つの方向に向かわなければならないので、「うんそうだねぇ」と一言言うことが難しかった。これも折り合いだと思う。このメンバーで一つのイベントを作れてよかった。小田さん（歌手）も「人生おもしろいこと楽しいことばかりじゃ死ぬ時辛い。うまく混じり合ってることが大切」みたいなことを言っていた。全くそうだ。
・それぞれ自分にあった役でグループで活動していたが、やはり自分のことは自分がよくわかっていることに気づいた。特にどんどんのアイデアが浮かんでいる友達に感心した。また黙って話を聞き、大切な部分でまとめてくれることがとてもありがたかった。
・講義で決まったグループだったので**始めのうちは講義の時間帯だけのつながりだった**。しかし企画を立てていく中で、意見を出し合うことを繰り返すなかで**強い絆が生まれた**。相手とのコミュニケーションの中で自分の考えを相手に正確に伝えることの難しさを学んだ。
・私の役割はフォローワーだったのですが。時々出しゃばってしまったりと、自分の役割に徹することがすごく難しかったです。でも最終的にはお互いの役割を確認し合いスムーズな話し合いができました。今回学んでいちばん重要なことは、やっぱり自分の役割を意識して行動することです。
・女性の人が多かったので、僕ら男子ではできない発想とか考えとかあったので、いろいろな学部の人が居たので、いろいろな意見が出たので良かった。
・頭いいなと思った。回転が早い。遅刻しない体。手本にしたい。
・イベントは企画するときがいちばん楽しいと思う。旅行でも将来のことでも綿密に準備することで、何倍も良いものになると思う。今までは予想される悪いことは、あまり考えていなかったけどこれからは気をつけたい。
・多様な考え方ものの見方があるんだなと思いました。
・グループワークを通して各自の役割を果たしていて、班全員が責任を持って取り組んでいたと思います。**この仲間と一緒にイベント企画ができて本当によかった**です。
・いろいろと気づかされることがありました。
・冷静に判断するということ。意見が煮詰まったとき、一度気持ちを落ち着けるワンクッションおくことの大切さを学びました。
・みんなで意見を出し合って少しずつ良い企画になっていくことがとてもうれしく思いました。役割分担は大事だと思いました。
・仲間の意見を尊重することと、自分の意見との兼ね合いも難しかったが、よく自分の意見を聞いてもらうにはどうすればよいかを学んだ。
・発表したりグループワークをしたりして人によって得て不得手があるのが見え、それぞれうまく役割分担することが大事だと思いました。
・うちの班は違った学年が混ざったことによって、正直始めはやりづらいかもと思ったけれど、その緊張感がかえっ

てよい方向に進んだし。**年代（それほど離れていませんが）の価値観の違いが広い視野を生み出す**ことができた。
・グループワークにおいては、仲間とのコミュニケーションを大切にすることがいちばんだと思う。話し合いやその内容にも大きく影響する。仲間の一人が一瞬、怒ったことがあった。全く知らない面が人にはあるのと本当に実感した。
・自分が動けば仲間も動いてくれたが、自分が動かないと何も進まなかった。これには原因があって、メンバーがあまり積極的でなかったこともありますが、なにより自分が仕事を持ちすぎてメンバーは動きたくても動けない状態だったのが大きかったと思っています。あまりかかえこまず仕事はちゃんとふるべきだと思いました。

■今回の授業をあなたの今後の学習や人生にどのように活かせそう、活かしたいですか？

・ちょっとした企画などに今回の経験を生かしたい。
・人前に出て喋ること、企画を考えてすることは、**これからの人生役立ちそう**です。是非この授業を受けて学んだことを生かしていきたいです。
・人とのコミュニケーションをとることの重要性を学びました。名刺交換の仕方などは、これから先自分が社会人になってから次かせたら良いなあと思いました。イベント企画の仕事にも興味を持ちました。
・プレゼンテーションやとても興味がわきました。将来何で機会があればぜひ自分の企画を立ち上げ実現させてみたいです。
・より積極的に人とコミュニケーションが取れるようにしたい。
・社会でのマナーを学べた。このようなことは他の授業では絶対に教えてもらえないことなので、今後もっともっとこうした実際に社会に出て役立つこと学べる授業増やしていくべきだと思う。
・今回もらった資料はすべて保存しておいて、いつか就職した時また**アルバイトで接客の仕事などをすることになったときに有効利用**したいです。
・まず、**サークルがもっとうまくまとまるように**コミュニケーションを図りつつ、これからの活動でボランティアを企画していきたいと考えているので、うまくいくように企画を立てていきたいです。
・ビジネスマナーなどは将来も使えると思うのでプリントは全部捨てずに取っておこうと思う。
・とりあえず料理を一つ覚えました。この企画を作成する際にいろいろな方々の協力を得ることができました。生協職員、留学生、教育学部の家庭科の先生、そして ICO の方々。イベントを作る際には様々な人々の協力が必要だと思いました。
・将来就職したら企画の仕事をしたいので、イベントプランニングを生かしたい。ビジネスマナーも夏休みのインターンシップをはじめ、今後十分に生かしたい。
・イベントを作る上での難しさがよく分かった。また人の意見を聞くことで自分の視野が広がった。これからは多くの人と会話してみたい。
・授業でもこの先でも意見を求められることたくさんあると思うので。この授業とって良かったです。ビジネスマナーのことも学べたし、新鮮な経験がたくさんできました。
・何かの仕事に就いた時やグループ活動する時にアイスブレイクなどは次やりたいと思う。
・パソコンサポーターをしているので、そのプランニングで生かしたい。**卒論就職活動にも生かせる**。**将来次の世代にうまく教えていける要素になればよい**。
・プレゼンの仕方を人生に活かせそうであった。
・**後輩新人をどう引き立てていくか、どうやって成長させていくか**。
・プレゼンの企画の仕方を媒体学べたし。社会でのマナーのようなこと学べたので、それを生かす場面はどこにでもあると思うので、どんどん生かして自分のものにしていきたいと思います。
・今回企画がいちばんよくみんなから評価されたのを自分の自信にして、サークルでのイベントの企画を頑張りたいと思います。常に相手のことを考えながら、イベントを考えるのが必要だと思いました。
・生かしたいし、今現在も生きている。
・今回初めて知ったことがたくさんありました。大きく言えば**この授業は、大学と社会との懸け橋みたいなもの**だと思います。これからインターンシップも経験したいし、今後生かしていきたいです。
・私の将来の夢は、ウェディングプランナーなので、企画の形は違いますが企画することの大変さを学べてよかったです。
・将来教師になるか分からないが、アイデアを生み出して他の人にどんどん提供していきたい。
・特にビジネスマナーは学生のうちは自分から積極的に学ぶ姿勢がないと身につかないと分かったので、今後課題にしたいと思います。
・夏にホームページを開こうと思っている。それもイベントだ。ページ自体イベントだ。**週に１回なんてもったいない。「イベント学科」を作ってほしい**。大切な力だと思う。
・何か計画を立てるときの手順が分かったので、**友人と旅行などするときなどの身近なところから**

生かしていきたいです。
・友達と遊びに行くときの小さなイベントでもイベントを盛り上げていく手助けができるようになったと思う。
・ビジネスマナーは知らないことだらけだったので、本当に助かりました。人と話し合うということの難しさを学びました。
・イベントを企画することに興味がもてたので、将来の進路の選択肢が増えた。
・マナーや作法はもちろん、**頭が柔らかくなった**のでいろいろ生かせそう。会社で生かしたい。会社に入ったとき、真価が発揮されるように、今後努力して生かす。**まだまだ伸びるはず**。
・今回の授業で学んだことは今でも**他の授業の発表、プレゼンの時に大変役に立っています**が、将来社会に出てからもどんどん生かせるものだと思うので、身につけたものを生かしていきたいです。
・**物事順序立てて考えること**が身につきました。これはこれから社会に出るとき役立つと思います。
・何かの企画を立てる時には確実に生かせると思います。就職してからも活かせたらと思います。
・この授業は自分のこれからの生活になくてはならないものになると思います。今までの授業振り返って頭に入れておきたいです。
・所属サークルで、学生祭に出店をするみたいですが。そのとき授業で学んだ知識を生かせたらと思います。
・企画する上での決まり事、他にも表現できないものを含め、実際のイベント企画することによって次の実践に生かしたい。意識の違いでよくなることがあるのだから、しっかり意識したい。人と仲良くしようと企んでいるわけではないが、仲良くできて悪いことは無いから、どんどん技術を駆使して、コミュニケーションのスキルを上げていきたい。
・もっと人とコミュニケーションを取り仕事を任せかかえこまないようにすること。これからは変えていきます。

■そのほか何でも（感想、授業担当者のコメント、来年度受講者のメッセージ）があれば記入してください。

★感想
・楽しかったし勉強にもなりました。企画をすることの難しさや楽しさというものがよく分かったような気がします。ありがとうございました。
・自分の班の企画を考えてももちろん他の班のいろいろな企画を聞き楽しかった。自分では考えつかないような案もたくさんあり、とても感心させられました。
・**とてもためになる授業**でした。これからもしかりコミュニケーションを大切にしていきます。
・パソコンなどを用いて現代的な授業でとても毎時間楽しかったです。しかも内容的にもすごく充実していて、これからも受けれたら良いなあと思うほどでした。
・とても楽しい授業でした。ありがとうございました。
・楽しかったです。グループワークは思った以上に大変だったけど、良い経験になったと思う。
・とても楽しい授業で本当に役立つものでした。ただ**大変なこともたくさんあって社会人体験のような感じ**でした。企画の難しさ面白さを学べました。ありがとうございました。
・楽しかったです。自分の力量がまだまだだと再認識させられ、また実践を通してスキルアップがはかられるので、とても良い授業でした。
・他の授業との兼ね合いで、集合が合わなくてプレゼンが不十分になったのが残念だった。
・**いちばん楽しい授業でした**。
・**最初に受講するといって集まった全員が最後まで受講した授業は他にはないと思います**。楽しかったです。また継続して同じメンバーでグループワークできたので、仲良くなれてよかったです。今後も続けてほしいです。
・よい授業だった。これからも続けてほしいです。アウトプット型の授業とても面白い。「人生はイベント」一つ良い言葉を学んだ。
・とてもためになる授業でした。自分から積極的に活動しないといけないなあと思いました。だけど、グループの人に助けられる面もあって本当にグループみんなでやり遂げることができたと思います。
・楽しかったです。会社で仲良くなりました。これから一人一人プランニングして、食事会をしていこうって言っています。
・非常に面白い授業だと思う。ただこうしたらいいよみたいな模範的なものを見せてもらいたかった。基本を知りたかった。
・グループ分けの際、サークルや出身などもなんとかして聞いて作ってほしいです。
・他の授業とは違ってとても楽しかったです。ありがとうございました。
・本当に大変でした。最初はどうなることやらと思っていましたが、いちばんだったのでとてもうれしかったです。
・後半は**忙しくて大変だったが、得たものは大きかった**。何人かの先輩方のお話の勉強になったが、それよりも少しビジネスマナーの時間を取ってほしかった。
・とって良かったと思いました。講義形式の他の授業とは違うし、他学年との交流も深められました。楽しくために

なる授業でした。
・私の夢はイベントプランナーなのですが。どうやってなったらいいのか。どこに就職したらいいのか全くわかりません。こういうのどこで調べたらいいのかわからないので教えてほしいです。
・イベントというと楽しいというイメージしかなかったのですが、裏では大変なんだと分かって、これからイベントに対する見方が変わるなと思いました。大学でまさかこのような授業がって受けれるとは思っていなかったのでとても嬉しいです。最初の国で３番目に名前が呼ばれたことを今でも覚えています。よかったです。今後このようなイベントに積極的に参加したくさんの人の話を聞いて、自分の世界をどんどん広げていきたいと思いました。ありがとうございました。
・**４年間ずっと学びたかった**。何冊か本も買ってみたい（２冊ほど買ってみた）。大切な力であるこの力を十分に生かしたい。
・**この授業を通してとてもたくさんの友人ができました**。コミュニケーションがとれ協力することを知ることができるので、ずっと続けてほしい授業だと思います。
・前学期ありがとうございました。正直に言うと**アウトプット型の授業で始めは戸惑っていましたが、参加していくうちにとても楽しく授業を受けることができました**。
・とても良い刺激となりました。後期でもあったらとるかも。
・とても楽しい授業でした。ありがとうございました。
・**高校の受け身の授業とは全く違うスタイルで一瞬とまどうこともあったけど、良い経験**になりました。本当にありがとうございました。
・勉強になりました。受講者中心なのでとてもよかったです。
・この授業がいちばん楽しく、また積極的に受けられたと思います。来年の受講者がもっと増えて、みんなに素晴らしい経験をしてほしいと思っています。
・将来役にたちそうな話をいろいろ聞けて楽しかったです。
・３回生でこの授業に参加し、１、２回生の生き生きした学生生活をたくさん見てうらやましく、ちょっと後悔。今からでももっと視野を広げて１日１日を大切にしようと思いました。広い意味で勉強になりました。受けてよかったです。
・とても楽しい授業でした。**今日で終わりだと思うととても寂しい**です。
・他の授業と違い、受け身ではなく、積極的に活動ができ楽しかったです。この授業をとって良かったと思います。佐藤先生どうもありがとうございました。
・来年も受けたい。この授業だけが楽しさを感じる。**毎日受けたい**ぐらいだ。**学部の垣根がないのが素晴らしい**。先生が教室に入ると何か違う空気を感じる。もう１回受けてもいいですか？
・プレゼンの作り方や工法の仕方など、役に立つヒントはたくさん手に入ったと思います。しかし**今回の授業いちばん大切だったのは組織を運営する練習だった**と感じました。面白かったです。まだやりたい気分ともう疲れたという気分が半々といった感じですが、授業を受けたことはいい経験です。

★来年度受講者へのメッセージ
・絶対面白いから、雑学の勧めは取った方が良いと思う。抽選は本当に怖かったけど、運良く選ばれて良かった。
・この授業は、**やる気のある人にとってはこれほど面白いものはありません**。ぜひ頑張ってほしい。
・**この授業はドキドキワクワク**。この授業は楽しみになると思います。楽しんで授業を受けてください。

参考資料：イベントプランナー養成講座「リフレクションシート」

（氏名：　　所属学部：　　）

１．本授業の目的を再確認しましょう。

ビジネスの現場や市民社会で求められる「イベント企画力」を身につけることで、主体的にものごとを企画し、多くの他者を巻き込みながら、「場」を変革できる人間を養成する。

２．学習目標のチェックをしましょう。

下記の知識とスキルの習得が目標でした。到達したと思うものに、チェックを入れましょう。

学習目標	√
コミュニケーション（聴く・話す・尋ねる）のスキルを向上させる。	
会議の場で、建設的な議論、コンセンサス法による意思決定を行うスキルを身につける。	
基礎的なビジネスマナーの知識とスキルを身につける。	
成功するイベントの要素を複数あげることができる。	
効果的な広報宣伝活動についての知識とスキルを身につける。	
円滑な会場運営・宴会設定に関する知識とスキルを身につける。	

３．学習を通して、自分に関して気づいたこと、学んだことは何ですか？

４．グループワークを通して、その仲間に気づいたこと、仲間から学んだことは何ですか？

５．今回の授業を、あなたの今後の学習や人生にどのように活かせそうですか？もしくは活かしたいですか？

６．その他、何でも（感想、授業担当者へのコメント、来年度受講者へのメッセージ）があれば記入して下さい。

下記にメールアドレスを記入すると、数日内に授業担当者からあなたのリフレクションシートに対するリアクションコメントが届きます。また、キャンパス内でのイベント情報を提供するメールマガジン（週 1 回発行）の購読を希望する人、24 時間テレビにボランティアのイベントスタッフとして参加希望の人は□の中に✔を入れて下さい。

□キャンパスイベント情報メールマガジン購読希望

□24 時間テレビにボランティアのイベントスタッフ希望

あなたのメールアドレス　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（丁寧に書いてください。）

科目名：外国の文化　　*授業形態：プロジェクト科目*
担当教員：向井　留実子(教育・学生支援機構)
受講者数：１０名

●重視した教育目的
異文化の人々との交流を通して、その文化への理解を深めるとともに、自らの可能性を見出すことを目的とした。従って、各学部で行われる専門知識獲得に特化した海外研修とは異なり、より教養的で基礎的な知識や経験、スキルの獲得を目指したものとなっている。
●設定した到達レベル
・国レベルの文化とその一地方のローカルな文化を対比的に理解する。
・異文化を通して自文化に対する気付きを得る。
・様々なストラテジーを用いたコミュニケーションスキルを獲得する。
・自己変容の過程を意識化し、自らの関心や可能性を発掘するきっかけとする。
●授業を進めるにあたって特に留意した事柄
・この科目の特徴として、①受講者は互いに初対面　②海外という全く未知の場での学習　③短期間、の 3 点が挙げられる。これらの条件下で最大限の成果をあげるために、受講者間の関係作りに特に留意した。具体的には事前授業開始時に十分なアイスブレーキングを行い、各活動のグループ分けにも全員が満遍なく接触できるよう配慮した。
・事前学習では、現地で円滑で実質的な交流ができるよう、タイに関する基礎知識の提供の他に、現地での文化紹介の準備、さらに留学生を講師に簡単なタイ語学習を行った。留学生を講師にしたのは、帰国後の交流にも配慮したためである。
・出発前から出発後にかけての自己変容の過程を意識化できるよう、各自にレポートの提出やメモの作成を課した。
●学生の反応
・帰国直後のアンケートでは、全受講者から非常に満足であったとの感想が寄せられた。特に少数民族の村でのホームステイからは、タイ国内における少数民族の立場、他地域との経済格差の実態、その結果として独自文化を継承することの難しさを学び、得るものが多かったようである。
・帰国後のレポートは、分量制限をせず、それぞれの関心に基づき作成することにしたところ、Ａ４で数十ページの内容の濃いものを提出する学生もおり、この研修の与えた影響の大きさを痛感した。
●総合的にみてうまくいったかどうか
・この科目受講がきっかけとなり、ほとんどの者が別の研修参加、留学の検討、学内の国際ボランティア活動への参加と、積極的に次の行動へ向かっていっている。この結果は、この形態の授業が、短期間であっても、確実に学生たちの変容を促すことができることを実証していると思われる。
・短期間で慣れないところでの学習ということで、健康管理には気をつけていたが、体調を崩すものが出てしまった。健康の自己管理まで含めたトータルな学びを提供する場として考えた場合、この点への対応は不十分であったと考える。
●今後に向けた改善点、
・事前学習は、短期集中型で出発直前に行ったため、一方的な知識提供に終わってしまった。今後は時間的余裕をもって開始し、参加者自らがその国の情報を調べる活動を盛り込めば、現地学習がより効果的になると考える。
・海外で、かつフィールドでの授業であるために生じる以下の問題の処理をどうするかが今後の授業計画に影響してくる。
　①登録処理の煩雑さ（海外渡航にかかわる手続き）　②危機管理体制の未整備（健康、安全性の確保、緊急連絡体制）　②参加費の設定と回収の難しさ　③実施時期設定の難しさ（相手国

の気候、相手機関の受け入れ最適な時期に配慮しながら、本学として最適時期の調整をする難しさ）

これらの点については、事務側からの強力なバックアップが不可欠である。今後この形態の授業を増やしていくとすれば、これらの点についての検討・調整を要すると思われる。

・この形態の科目においては、何を評価するのか、それが数値化できるものなのかが問題となる。他大学の事例などをもとに、達成目標と合わせて評価の方法について検討をしていきたい。

●愛媛大学の学生に学ばせたい教養テーマ

・異文化理解に必要となる日本に関する知識

科目名：地球を考える　　*授業形態：プロジェクト科目*
担当教員：佐野　栄(教育学部)
受講者数：３０名

授業題目：星空ウォッチング

重視した教育目的：
　都市化が進み，なかなかきれいな星空を観望する機会が少ない現在，本授業をとおして，星空の雄大さ・美しさの再発見を行う。また，宇宙の中の地球の存在について考える場とする。

設定した到達レベル
（１）代表的な星座をおぼえる。
（２）太陽系のしくみを理解できる。
（３）天体観望をつうじ，自然界の雄大さを実感することができる。

授業を進めるにあたって特に留意した事柄：
　法文学部・理学部・医学部・農学部と文系から理系まで多様な学部学生が受講しているので，なるべく多くの学生が理解しやすい内容を取り扱うよう心がけた。また，天体観測には初心者から経験者まで様々なレベルの学生が受講しているので，できるだけ多くの学生が興味を持つような内容になるよう心がけた。
　授業の前半は，室内での講義形式で天文に関する基礎知識を与え，中盤で，コミュニティセンターのプラネタリウムで星空の疑似体験，そして１１月２６日（土）～２７日（日）に久万高原ふるさと旅行村内の久万高原天体観測館およびその周辺で天体観測を行った。終盤では，全体のまとめを行った。
　個々の授業時における授業展開方法として，まず冒頭で，「今夜の月齢は？」の問いかけ，「今夜の星空・今週の天文現象」に関する意見交換と情報の提供を行った。これにより受講生が夜空に目を向ける機会が増えることを期待した。また，実際の星空を見る前に天文シミュレータ（Starry Night Pro 5）を用いて，星座や星雲・星団の紹介を行い，知識を身につけさせた。授業の後半には本時の内容に関連するＤＶＤ教材（宇宙デジタル図鑑）を使用した。

学生の反応：
　最終授業で学生に授業の感想および意見を記述してもらった内容が本授業への反応を最も正確に表現していると思われるので以下に列記する。３０名全員分の自由記述で，多くの学生は，記入範囲をはるかに超え，余白いっぱいにまで感想を書いてくれた。なお，★一つが一人分の感想である。
★本当にとても良かった。いつか自分でも望遠鏡を買って天体観測をしたいと思う。★私は宇宙に関する詳しい知識もなく，経験もありませんでした。しかし，そのために講義を最も新鮮な気持ちで受講できたという自信はあります。知識や体験の一つ一つが新しい発見でした。そしてもっと知りたいという興味がわきました。本当にこの講義は私にとって新しい分野への一歩です。これからもどんどん未知の世界を知りたいと思います。★私はムーやニュートン等の雑誌を好んで読むので最後のテストのテーマは自分にとってありがたいものだった。天体は，興味はあったものの，詳しく知ろうなんて思っていなかった。この授業の中で，天体に関心を持ったというか，宇宙を語る上でなくてはならない存在だなというのを再確認できたのでよかった。★普段は忙しくてゆっくりと星を見る時間や宇宙について考える時間をとることは難しいです。そんな中で，この授業を受けることによって，自分の興味のあることをする時間が持て精神的な救いになりました。ありがとうございました。★この授

業を受講したおかげで星や宇宙についての基礎的知識が得られ，そのおかげで夜星を見るのが楽しくなりました。興味を持っていなかった今までがひどくもったいなく思います。これからは，星にまつわるイベントなどの情報を自主的に集め，夜星をながめたいと思います。本当に楽しい授業をありがとうございました。来年の夏などにまた参加者を募って天体観測をしに行くという予定はないですか？そのようなことがありましたらぜひ参加させてください。★久万高原に行って，今まで見たこともないくらいはっきりと星が見れたこと，また，星座をみつけられたことは，これからもずっと記憶に残るだろうと確信できる程深い感動だった。しかし，授業を進めて行く中で，自分にとっての宇宙という存在が，今までより広がりをもてたことは同じように貴重な経験だったと思う。★先生の授業は，とっても楽しかったです。星を見ること自体，前から好きだったのですが，先生の授業で，ただ星を見るということから，星座の位置，星の名前，銀河系以外の星の光などを，理解して見ることによって，大学生らしく星を見ることができたと思います。また，天体の理科の授業のような授業をされるのかなあ，と思っていたら，先生は星に対するロマンを持っていらっしゃるようで，久万へ行ったときも，星の知識を教えてくださる学問的な面と，星の光を純粋に楽しむ感性的な面との両方から授業を楽しませてくださいました。ありがとうございました。★私は，今年の春，愛媛に来るまで１８年間神戸で暮らしていた。神戸では街の明かりで晴れた日でも数えられるほどしか星が見えない。しかし，以前からずっと一度でいいから天の川や星座の形が分かるぐらいの星空を見てみたいという気持ちが強くあり，この授業を受講した。この授業は，シミュレータやＤＶＤを使っての星空や天文現象の説明もおもしろかったが，何より久万高原に行って望遠鏡を使ったりしながら自分の目で実際の星空を観察できたことが一番良かったと思う。他の授業ではできない経験ができ，受講前より天文に関する興味は大きくなった。授業が終わった後も毎月の天文現象などをチェックして，自分なりに星空観察を続けたい。★非常に有意義な授業でした。宇宙に関する知識が，子供の頃に読んだ本と，中学で習った程度，かつそれらの記憶が薄れている私としては，新鮮な知識ばかりで，大変興味深かったです。何より一泊天体観望はとても貴重な体験となりました。久万の高台から見える星は非常にきれいでした。これからもこの授業を続けてくださり，多くの人にこのような体験をしていただきたいです。★はじめは，星空をなんとなくながめることが好きだった私が，この授業のおかげで，あの星はどの星座に位置するとか，その星座の神話とか，あの星は今生きているのだろうか，死んでしまっているのだろうか，などなど，夜空の奥にある宇宙を意識するようになりました。すごく充実した授業・経験になりました。★この授業でいろいろなことを学べたので，とって良かったです。今まで知らないことが多すぎたのかもしれませんが，今回覚えたことを活かし，今後，いろいろなものを観てみたいと思っています。あと，ＤＶＤを見るのがおもしろかったです。★以前より宇宙に興味を持っており，授業において様々な知識や体験を得れたことはとても幸せでした。特に，天文台で見たあの天体は，自分の中で非常に印象づけられています。★星空シミュレータやＤＶＤ，プラネタリウムや合宿など実際の星空や天体を見れる機会が多くてとてもわかりやすかったし，宇宙や星に対する興味がわいた。★今夜の星空，とシミュレータでみるのが楽しみでした。ただ，細かい星が多すぎて分かりづらかったです。コミセンのプラネタリウムも良かったけれど，何より合宿が一番楽しかったです。あれだけの量の星を見たのも，流星を５個も見たのも，土星を望遠鏡で観たのも初めてでした。アーサー．Ｃ．クラークの「２００１年宇宙の旅」で，スイングバイで木星まで有人で行こうとしていました。授業でスイングバイが出てきたとき，少しうれしかったです。★夏休みのとき，一度久万高原に行ったのですが，その時以上に，きれいな星を多く見ることができました。また，授業で少しの知識をつけるだけで，あんなにも星を見ることが楽しくなるとは思いませんでした。この授業で，もっと星に興味を持つことができたので，また，自分なりに星のことを学びたいと思いました。★この授業を受講できて本当に良かったです。星を見に行けたり，覚えられたりできたのも良かったけど，普段は漠然としか見ていない宇宙について考えるいい機会をもらうことができたと思います。★私は今まで本格的に天体を観測したことは無かったし，意識したこともなかった。しかし，この授業に参

加してから，宇宙，ひいては自分たちの住む地球という天体について真剣に考えるようになった。これからも機会があれば積極的に星や天体を見て様々な事について考えていきたいと思う。貴重な体験ができて良かったです。★この授業を受けるまで，宇宙についてあまりよく知らなかったし。正直，たいして興味もなかった。でも，今では，重信の夜空に“すばる”をみつけたことに感動する自分がいる。星空のすばらしさを学ぶことができたこの授業は毎回楽しかったし，とても有意義でした。★最初の授業でくじ引きをしたとき，くじを引く前から受かる気，満々でした。この授業を取らないで何を取るのか？ぐらいの勢いでした。実際，授業を受けてみてＤＶＤやシミュレータにとても興味が湧きましたし，プラネタリウムや合宿もとても満足のいくものでした。こういう授業はなかなかないので，ぜひこれからも続けて欲しいと思います。★この授業を受けて，今まで経験したことのないほどの星の知識を得れました。私はいままで星座でさえすべては知らない人間だったけど，ＤＶＤによる映像の授業や，久万に行っての本物の星を見る授業を受けて，星に対する興味はどんどんふくらみました。今では，夜は自然と空を眺めているといったことがよくあります。これからも暇があれば夜空を見上げて常に観測していこうと思います。貴重な授業ありがとうございました。★今回，この授業を取ったのは，星に前々から興味があり，その知識をもっと深めたいと思ったからでした。その知識を深める上で，この授業はかなり良いものでした。星図の見方や様々な星雲，星団の名前や形，その他にもプラネタリウムに行ったり，天体観測にも行ったりと，普段，なかなかできない貴重な体験もできて良かったです。また，こういう授業があれば受けてみたいと思いました。★「楽しそうだから」と軽い気持ちで選択した講義だったが，プラネタリウムを見れたり，久万高原で天体観望できたり魅力的なことばかりで，どんどん星に引きつけられていった。また，授業で得た知識を活かして，夜，ベランダから星空を眺めるという楽しみも増えた。ここでしかできない貴重な体験ばかりだった。星を好きになることができて本当に良かった。★久万高原での合宿が楽しかった。本当にいつもは見られない星雲・星団がきれいに見えた。講義でも簡単に望遠鏡のしくみを触れてくれたので楽しかった。あと言えることは，ネットのシラバスのオフィスアワーに時間だけ書いてあって，場所が書いてなかったので質問（相談）しに行けなかったのが残念です。★実際に望遠鏡をいじって星団を入れてみたり，合宿は本当に楽しかったです。今でもたまには夜空を眺めてこの間のおさらいをしています。もうだいぶ様子も変わってきましたが。またいつか，個人的にでも久万に行きたいと思います。いつも授業の最後の方で見てたビデオも映像がきれいで良かったです。本物はあんなにきれいじゃないなんて残念。★本当に楽しいことがたくさんあった授業でした。授業で見たシミュレーションやＤＶＤはとても勉強になりましたし，たくさんの興味がわきました。合宿では，今までよくわからなかった星座や星などがだいぶわかるようになりましたし，いろいろな天体を見ることができて良かったです。また，機会があれば星を見に行きたいと思える授業でした。これで終わってしまうのが本当に残念です。★テストがものすごく難しかった。星について興味を持つようになり，夜空を見上げる回数が増えたと感じる。天体観測の合宿も楽しく，知識だけでなく思い出も手に入ったのが良かった。月齢とか二十四節季など，知らなかったことを知れてうれしく感じる事の多い授業で，参加してとても良かったと感じる。★まず，この授業に出れて本当に充実していて，楽しく有意義な時間で良かったと思います。私はあまり星には詳しくなかったけれど，この講義を通して，とても興味を持つようになり，本で調べたり，毎晩，夜空を観察したりと，ひとつの自分の趣味になりました。この講義は，他の講義と違い，プラネタリウムや天体観測合宿など，人生ではあまり体験できない事ばかりで感動の連続でした。また，個人でもいろいろな所に天体観測に行きたいと思います。ぜひ来年もこの講義を続けてほしいと思います。★“宇宙”は大きすぎて今の人間にはわからないことがいっぱいです。でも宇宙はとても神秘的で考えるのが楽しいです。この授業では，宇宙について考えれたし，きれいな星，星座も見れたし，とても良かったです。★授業を受ける前と後では，宇宙観が全く変わった気がする。より身近であるように感じ始めた。星空を見て一つ星座を知ることの喜びを知ることができたし，特に期末テストのテーマを考えることで，今まで考えたことのなかった一種の哲学的な概念を

持てたと思う。ぼんやりとであるが，星を見るたび，私とあの美しい星がどこかで繋がっているといいなとか，今地上で同じ星を見上げている人と繋がっているのだなと思うと嬉しい気持ちになる。どこかで地球をみるものがいたなら，地球を美しい天体だと思ってほしい。もともと夜空の星は好きだったけれど，逆に地球を愛せるようになって，この講義には感謝している。今度は夏に，四国カルストかどこかに合宿に行けたら．．．と思う。★今日限りでこの授業が終わるのが残念だ。想像以上に楽しい授業であった。ＤＶＤの使用によって，よりリアルに星が見られた。もっとも，久万で実際に見た星よりも映りがきれいであって，「あら？」て思うことはあったが。とにかく，星への興味をかきたてられた。

総合的にみてうまくいったかどうか：

上記の学生の感想からは，概ね本授業を受講して満足している様子がうかがえる。また，「授業改善のための最終アンケート」集計（３０名）に基づくと，＜視聴覚機材＞，＜教員の意欲・熱意＞，＜満足度＞で３．９の高評価を得ている。その他の項目についても軒並み平均値を上回る評価を得ており，総合的に見て，本授業は成功したものと判断できる。

本授業の組み立てで，前半に天文シミュレータによる仮想的な星空を投影していたせいか，合宿時にどの学生も比較的容易に星座をみつけたり，その位置関係を理解したりすることができた。半期を通しての授業構成が効果的であったものと考えられる。

今後に向けた改善点・その他：

改善点は特にないと考えられるが，しいてあげれば，学生の感想にも記述されていたが，シラバスのオフィスアワーの部分に研究室の所在地を明記する必要があった。

今回の授業が成功した要因の一つに，久万高原での合宿時の天候が考えられる。今回の合宿日は夜半前まで快晴，夜半頃から雷を伴う雨，夜半過ぎに再び晴れ間が覗くという天候であった（ちなみに同日松山は一晩中，雷を伴う豪雨であり，北の空の雷光が久万高原でも見えた）。おそらく天候不順で星を見ることができなかったならば，評価は下がっていただろう。天体観測を題材にした授業設定は，最終的にすべて天候に左右される。そのため，合宿の１ヶ月前頃から久万高原地域の天気が気になってしかたなかった。精神衛生上よろしくない。この授業のように天候に左右されるような綱渡り的な内容の授業はあまり継続したくないのが本音である（学生からこの授業を継続する要望は多かったのだが．．．）。

本授業のように，天体観測などの体験型の内容を主軸にした授業の成績評価方法をどのようにすればよいのか，今後の課題である。合宿やプラネタリウムでの観望会に全員参加し，普段の授業の出席状況も良い場合，成績の優劣をつけることは難しい。本授業では，体験型の授業に「優」，「良」，「可」の評定をつけること自体むずかしかった。今後，成績を評点でつけなければならないようであるが，今回の授業のような形態の場合の評価方法をどのようにするのか検討する必要がある。

科目名：生命の不思議　　*業形態：サイエンス体験科目*
担当教員：林　秀則(無細胞生命科学工学研究センター)
受講者数：２７名

ねらい

現代社会ではパソコン、携帯電話、液晶テレビなどハイテク機器を日常茶飯事的に誰でも使っているにもかかわらず、理工離れ、理科嫌いなど科学教育に対する問題点が指摘されている。特に高校で理科が受験科目として単に教科書の暗記に終始している現状では、科学に対する興味あるいは科学的な見方、考え方は失われる一方である。そこで科学の楽しみを知ることなく、また今後も科学実験などを体験することのない文系学生を主な対象として、「見て、触って、実際に試す」科学の面白さ、そして観察に基づいた推測と試行錯誤による検証を体験することによって、科学的な見方、考え方を習得し、将来一般的な職業に就いても科学的センスを発揮できることを目的として企画した。

内容

8 回の講義と 4 回の実験（所要時間約 3〜4 時間）を実施した。授業の内容は生命の基本的な仕組みを理解するため、糖類、タンパク質、脂質、遺伝子などの生体物質の化学構造、生化学反応などを概説し、実験では糖類の分解、タンパク質の変性、遺伝子導入、DNA の分析などを取り上げた。2〜3 回の講義のあと、その内容に関係した実験テーマを実施した。これらの内容は我々の生活にも関連したことであり、文系の学生でも生命がどのような仕組みで活動しているかを化学的な観点から見ることができる。現代生命科学の入門的内容として文系理系を問わずぜひ理解しておいて欲しい内容である。

実施状況

実施に際しての目標は「文系学生に科学を体験させる」ことであったが、受講生 25 名のうち文系学生は 7 名で、残りは理学部、農学部など理系学生であった。想定していたより理系の学生が多かったので、当初計画していた中学高校程度の基礎的な科学実験の一部を私の研究室で行っている遺伝子操作を取り入れた比較的先端的な内容に変更した。

学生を 5〜6 名のグループに分けて、授業を聴くときも、実験を行うときもグループ単位で行うようにした。実験の場合は班単位でそれぞれ役割を分担して行うことは一般的であるが、講義の時にも机を寄せ合ってグループ単位で授業を聴かせた。また授業の途中で分子模型を共同で組み立てさせたり、演習問題を相談しながら考えさせたりした。班分けの際に極力異なった学部の学生が一緒になるようにしておいたので、授業の間、文系の学生は理系の学生からいろいろ考えを聞く機会があったと思う。

結果

タンパク質や遺伝子など講義で聴くだけでは一般的には（特に文系の学生には）実感がわかないものである。しかし講義を聴いた後、それを扱う実験を通じて、具体的にどのようなものであるか（たとえ目に見えないものでも）、ある程度の理解できると期待される。

最終回の授業アンケートには
「実験がとてもおもしろかった。」
「結構楽しかったです。」
「様々な実験ができて良かった。違う学部の人と仲良くなれて良かった。」
等の感想があったが、無記名のため記入した学生の学部は特定できなかった。

実験の際のアンケートでは法文学部の学生が以下のような意見を書いていた。
「文系なので、実験などは中学校-高校 1 年ぐらいまでしかしていなかったので、普段できないことができておもしろかった、またいつも同じ結果が出るわけではないのがわかって良かった。」
「少し時間がかかりすぎた。予想とは違うところもあった。」
「・・・ 人の体はよくできていると思った。実験は中学以来ほとんどしてないので、今日の実験は楽しかった。」
「予想した結果と全然違う結果だった。実験は高校でしなかったので大変楽しかった。時間がなかったのがちょっと残念。」
「遺伝子の実験はしたことがなかったが、おもしろかったので良かった」

「実験自体は簡単だったけれど、時間が長かったので疲れた。」
「今日の実験は細かい作業が多かったのでむつかしく、かなり助言をもらったけど、きちんと作業できた。」
　これらの感想を見る限る、高校でほとんど実験をする機会のなかった学生が、本企画における実験をある程度楽しみながら受講したものと判断できる。

問題点

　時間の確保：実験には待ち時間を含めてある程度の時間がかかるため、授業のないはずの木曜日の午後に実施するつもりでいたが、授業のある学生が数名いたため、土曜日の午前中に実施することになった。それでも土曜日には研修旅行などの行事がはいることがあり、実験に参加できない学生もいた。救済措置として、授業終了後一回余分に実験の時間を用意した。また準備と予備実験（一通りの操作を実際に行ってみる）のためＴＡとともにほぼ一日を費やした。
　部屋の確保：実験の一部は理学部の学生実験室を借りて行った。その他は私の研究室の実験室で行った。実験装置の関係上そうせざるを得なかったが、通常の研究室で 30 名近くを収容するのはかなり窮屈であると思われる。適切な部屋が用意されることが望まれるが、実験によって必要な装置や機材等が全く異なるため、共通の部屋の利用はかなり困難と思われる。
　消耗品の確保：事前に申請すれば白衣や機材などの消耗品を購入ができるシステムは大変ありがたい。これがなければ研究室の予算を使うことになる。しかし必要な消耗品には、例えば食料品のような校費では購入しがたいもの、試薬など事前には購入できないものもあり、また事前に申請するために数ヶ月先の実験計画を詳細に立てることは困難である。せめて一部の物品は実施の直前でも購入できるようなシステムもあることが望ましい。

科目名：物質の不思議　　*形態：サイエンス体験科目*
担当教員：東　長雄(理学部)
受講者数：９名

授業題目：
　私たちの化学
学期及び受講生：
　前学期，受講登録者 10 名，単位取得者 9 名

目的：文系学生を対象に，討論と実験を取り入れた化学の授業を展開して，化学に興味と関心を持ってもらい，化学の眼で生活を眺めてもらう。

目的達成度：受講登録者は，理学部数理系３名，理学部化学系５名，法文学部２名と理系が多く，文系対象という「ねらい」は最初から大きくつまずいた。

授業展開：授業は手作り資料を用いて行った。資料は毎回次週の授業分を配布して予習の便を図った。資料に基づいて，講義，討論，実験を組み合わせて展開した。

第１回～第２回授業：　化学物質と文明の関わり及び現代の環境問題との関わりを討論しあった。
第 3 回授業：　化学元素の起源（水素が，ビッグバン後，最初に宇宙に現れ，ヘリウム以降鉄までの各元素が恒星中で誕生し，それ以降の各重元素は大きな質量の恒星の最後を飾る爆発によって生じた）について講義し，地球上に存在する元素が大宇宙の壮大な歴史を物語ることをみた。
第４回授業：　原子構造の基本について講義した。
第５回授業：　原子分子の存在を直観的に理解するため，気体分子の拡散を目で見る実験を行った。
第６回授業：　原子分子の存在を直観的に理解するため，プラスチック板に液体窒素，アルコールを掛けたときの液滴の運動を観察する実験を行った。
第７回授業：　原子の集合体である金属を，「原子から金属へ」のテーマで講義した。
第８回授業：　イオンの集合体から出来ている塩を念頭に，「原子からイオンへ」のテーマで講義した。
第９回授業：　電気の流れ（電流）を通して，電子の実在を直観的に理解するため，「電池と金属樹を作ろう」をテーマに実験を行った。
第 10 回授業：　前回で実験授業は終えたので，「これまでの実験結果に関する討論」のテーマで討論を行った。
第 11 回授業：　「色彩豊かな分子達」をテーマに，光の不思議な性質と物質の色について講義した。
第 12 回授業：　化学という学問の生まれ故郷である「溶液」を取り上げて講義した。また，僅かであるが，溶液と生命の関わりについても話した。
第 13 回授業：　化学物質は適切に反応させると「エネルギー」を発生させることが出来る（燃料の燃焼など）。「エネルギー」そのもの及び「エネルギー」に関わる現代社会の問題を化学の立場から講義した。
第 14 回授業：　化学反応には，爆発のような瞬間的に高速で進む反応もあれば，鉄鋼が錆びるようにゆっくり進む反応もある。この反応の速さをどのように扱うか講義した。

授業の効果：正直に云って，この授業の効果については解らない。授業終了後の教室には質問をしてくる学生も結構いて，関心はそれなりに持っていたようである。しかし，討論でもこちらが相当に誘導しないと大半の学生が発言しなかった。これは，解らないところ，疑問に思うところははっきり解っているが，理解していることをまとめて人前で話をするまで，討論するところまでは理解が進んでおらず，またそのために必要な言語能力（テクニカル・ターム）に自信がないためかも知れない。このことは，提出された２回のレポートを見ても，記述式に徹した期末テストからも読みとれる。

科目名：地球を考える　　*授業形態：サイエンス体験科目*
担当教員：山崎　哲司(教育学部)
受講者数：２７名

授業題目：大地の歴史を考える

本授業は，文系の学生を対象としたもので，実験を交えながら科学に親しみ，科学的な考え方を理解してもらうために設けた「サイエンス体験科目」である。結果として，受講者に工学部生が２名入ったが，２５名は法文学部と教育学部生であった。受講生数については３０名という制限を設けていたが，２回目から入ってきた者も含めて上限に達することはなかった。また，後期はシラバスの冊子を配布しなかったためか，初回に質問をした限りでは，シラバスを読んできた者は，ほんの一部であった。

授業の中で行った主な実験としては，城山における地層の観察（第３回），砂の分析と観察（第６回），微化石の観察（第 11 回）である。また，補足するものとして第７回に礫の観察，また第 12 回に熱帯のビーチサンドの観察や大型化石の観察を行った。その他の回の大部分についても，岩石資料や代表的な大型化石を講義室へ運び，順番に回して観察をさせながら講義を行った（標本も視聴覚教材に入ると思うのだが，そうは思わない者が多いのか，この項目がアンケート評価で高くない）。

授業題目もだが，授業内容は地味なものになっている。授業の中では恐竜の歯や骨，ナウマン象の臼歯など，地学に興味がない者でも「へぇ～」と思うような化石を見せているつもりだが，恐竜などの化石についてトピック的に解説することはせず，化石や岩石から地球の歴史がどうして分かるのか，どのようなことを手掛かりとして，大地の歴史を読み取るのか，という，地学（地史・古生物学）の基本となる考え方を伝えることを試みた。「化石の謎」，「恐竜の不思議」などと銘打って，興味を引きそうなトピックを集めて解説すればもう少し受講生が増えたかも知れないが，「サイエンス体験科目」として，地学分野に関する基礎的な見方や考え方を伝える，という点を重視して試行したつもりである。

「現在は過去の鍵である」，全球凍結や巨大な隕石の衝突など，現在の地球環境では見られないような，劇的な変動があったと言われているが，基本的には現在を知ることが過去を知る手掛かりである。過去の岩石（堆積岩）に含まれている情報を考えるため，重信川周辺および松山市の海岸で ”砂 ” を採集して，場所による違いを調べた。できれば受講生にも砂の採集をしてもらいたかったため，大学祭を挟む時期に採集を呼びかけたが，一人が応じてくれたに過ぎず，予想してはいたが，私が走り回って ” 砂 ” の採集を行うことになった。この ” 砂 ” を篩いにかけ，礫，砂（５段階の粒度），泥に分けて，その重量%，色（概略的な礫種の分類），形を調べた。水の流れの作用が，砂の特徴にどのような作用を及ぼすかを説明し，また他の地域で採集した砂も見せながら，場所により特徴が異なる意味をグループで少し考えさせた。ただし，現実の河川では，さまざまな要因が複雑に作用するため，細かな相違点の原因については，幾つかの可能性をこちらで提示し説明した。

採集してきた ” 砂 ” の中には，植物の破片や貝殻の破片など，生物体に由来するものも含まれている。生物に関連するものが岩石中に残されていれば，これを化石と呼ぶ。化石にはさまざまな情報が含まれており，過去を知る重要な手掛かりである。代表的な化石を実際に観察して，その形態的特徴を見ながら，なぜ環境が推測できるのか，化石から年代が分かるというのはどうしてか，について説明をした。

化石に関しては，肉眼で特徴を識別することが困難な微化石を題材として，観察・実習を行った。微小な生物は数え切れないほど生存しているが，過去も同様であり，その一部は化石として岩石中に含まれている。微化石というものには馴染みがないので，フズリナ類を主な題材とし，それが岩石中に含まれている様子や形態の特徴を観察するために，岩石を磨くという作業を行った。その後で，より小さな放散虫化石を，現生の放散虫（ガラス質であり，顕微鏡下で見ると美しい）とともに観察し，また１億年ほど前の岩石中にたくさん入っている様子も見てもらった。ここでは，微小な化石を使用する利点を，示準化石という言葉の説明とともに行い，また次の回に，それらが過去の環境を類する手掛かりにもなることを補足説明した。ただし，作業の最大の目的は，何億年も前の岩石の中から化石を見つける，ということであった。岩石をハンマーで割って，アンモナイトなどを探すという作業ができれば貴重な経験となるであろうが，そのためには大量の岩石が必要であるし，また何十人にもアンモナイトの入った資料を渡すことは，現実には難しい。微小な化石はその点で便利であり，岩石

中から割り出す，というものではないが，化石を見出す経験として，手軽にできる手段ではないかと考えている。この回については受講生からも特に好評であり，「大学の授業とは思えないほど楽しかった」という，複雑な心境となる感想を書いた者も見られた。

なお，この回は「新企画科目のビデオ撮影」に当てており，医学部の小林直人教授にも授業へ参加していただいた。授業後にいただいたコメントの一部を以下に列挙する。

・実物を観察する機会を設けたこと，特に石を磨くという簡単な“作業”を学生にさせたことで授業への参加意識が高まっていると感じた。
・授業の内容について詳しく解説したプリントの配付のタイミング（イントロダクションの後，開始から 30 分後）が良かった。
・板書もポイントを抑え，最小限の内容を大きな字で書いていて良かった。
・説明をするとき，教壇から降りると学生から見た距離が縮まると思われる。
・化石の実物のデモは，教壇の近くに学生を集めて行った方が良かったのではないかと思う。数分かかってでも学生を教員の近くに呼び寄せると，学生も質問しやすいし教員も説明しやすくて良いでしょう。
・実習室の制約上仕方ないが，教室間の移動により授業時間をロスするのが惜しまれる。

授業中の私語はほとんど見られず，また遅刻や欠席も（１，２人を除いて）ほとんどなく，授業の雰囲気は良かったと思っている。ただ，学生による授業評価アンケート結果を見る限りに置いては，あまり高いと言えない。自由記述欄に記述があったのは８名であるが，それを見る限りでは，「とても分かりやすかった，この授業のやり方　好きでした，共通科目の中で一番充実した講義だった」など好評のようだが，そのようなコメントの一方で２番の欄にチェックが多く入っているなど，判断が難しい。今年度から開始した授業で，試行錯誤をする部分が多かったため，自己評価としては”もう少し頑張りましょう”というところにしておく。「基礎的な見方や考え方を伝える」ということで，内容としては今年度のものをベースとするが，地球の歴史や大地の作りについて，もう少し関心を引きやすいトピックを入れ，授業内容の修正を行いたいと考えている。